

例 言





1. 本書は宅地分譲に伴う「高岡・塚村遺跡」第2次調査（市遺跡調査番号498）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、ケイアイスター不動産株式会社の費用負担によって実施された。記して感謝の意を申し上げます。
3. 本調査及び整理作業は高崎市教育委員会文化財保護課の指導のもと、技研測量設計株式会社が実施した。
4. 発掘調査および整理作業の体制は下記のとおりである。

| | |
|---------|--|
| 遺跡所在地 | 群馬県高崎市高岡町宇塚村94-1、他 |
| 監理指導 | 田口一郎・澁澤 匡（高崎市教育委員会） |
| 調査担当 | 瀬田哲夫（技研測量設計株式会社） |
| 調査員 | 宇佐美義春 佐野良平（技研測量設計株式会社） |
| 調査補助員 | 丸山和浩 坂田裕之（技研測量設計株式会社） |
| 発掘調査期間 | 平成23年2月7日～3月14日 |
| 整理作業期間 | 平成23年3月15日～6月30日 |
| 調査面積 | 938.39㎡ |
| 発掘調査参加者 | 飯塚二郎 石川輝子 植松郁雄 岡庭秋男 岡野 茂 黒田雄司 清水萬年 新地幸浩 鈴木美咲 中野光雄 中村昌博 那波克人 松下正雄 松本徳雄 岡庭啓治 三原一重 村山重男 |
| 整理作業参加者 | 宇佐美義春 大川明子 佐野良平 坂田裕之（技研測量設計株式会社） 須藤香織 澁澤佳子 田部井美砂子 福嶋隼子 |

5. 本書の編集は前田和昭（技研測量設計株式会社）が行い、執筆は第1章を田口が、他を瀬田が行った。
6. 出土遺物の整理・分類作業は堅穴住居跡を中村岳彦（技研測量設計株式会社）、縄文時代の遺物を宇佐美、他を瀬田が担当した。
7. 発掘調査で出土した遺物および、図面等の資料は、一括して高崎市教育委員会で保管されている。
8. 発掘調査および報告書の作成にあたり、下記の機関に有益な御指導、御協力を賜った。記して謝意を表します。（敬称略）
山下工業株式会社

凡 例

1. 全体図および遺構平面図に示した方位は北に座標北を表し、座標については世界測地系に基づく平面直角座標単座系を使用している。本文および図中では下三桁を表記している。
2. 挿図に国土地理院発行1/25,000『高崎』『前橋』、高崎市発行1/2,500都市計画図を使用した。
3. 土層および遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）に拠る。
4. 遺構表示の記号は、堅穴住居跡：SI、掘立柱建物：SD、ピット：PT、土坑：SK、溝：SD、性格不明遺構：SXとした。
5. 掲載図面の縮尺は、全体図は1/300、遺構個別の平面図及び断面図は1/60、コマドは1/30を基本とし、それ以外のものについては右下にスケールを示した。
6. 遺物実測図及び拓影図の縮尺は、1/3を基本として大型の土器については1/4とし、それ以外のものについては右下にスケールを示した。
7. 本文および表中の計測値については〔 〕は現存値を、（ ）は復元値を表す。
8. 遺物写真図版は、1/4に近づけるように撮影を行い、それ以外のものについては右下に（ ）で示した。
9. 遺物実測図、遺構図のトーン表現は以下の通りである。

須恵器  石器磨面  硬化範囲  灰範囲  焼土範囲 

10. 主な火山灰降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-A（浅間A軽石：1783）、As-B（浅間B軽石：1108）、As-C（浅間C軽石：3世紀後半～4世紀前半）
Hr-FA（榛名二ッ岳沢川テフラ：6世紀初頭）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）

目 次

例言・凡例

目次

| | | | |
|---------------|---|----------------|----|
| I. 調査に至る経緯 | 1 | (1) 堅穴住居跡 | 6 |
| II. 調査の方法と経過 | 1 | (2) ビット・掘立社建物 | 10 |
| III. 遺跡の位置と環境 | 2 | (3) 土坑 | 13 |
| 1. 地理的環境 | 2 | (4) 溝 | 13 |
| 2. 歴史的環境 | 2 | (5) 性格不明遺構 | 16 |
| IV. 基本順序 | 4 | (6) 遺構外出土遺物 | 16 |
| V. 検出された遺構と遺物 | 6 | VI. 発掘調査の成果と課題 | 41 |
| 1. 調査概要 | 6 | 報告書抄録 | |
| 2. 遺構・遺物 | 6 | | |

挿図目次

| | | | |
|------------------|----|-------------------|----|
| 第1図 遺跡位置図 | 1 | 第18図 PT (2) | 25 |
| 第2図 周辺道路図 | 3 | 第19図 PT (3) | 26 |
| 第3図 基本層序 | 4 | 第20図 PT (4) | 27 |
| 第4図 調査区全体図 | 5 | 第21図 SB01 | 27 |
| 第5図 SI01・02 | 17 | 第22図 SB02・03・04 | 28 |
| 第6図 SI03 | 17 | 第23図 SB05・06 | 29 |
| 第7図 SI04 | 18 | 第24図 SB07・08・SK32 | 30 |
| 第8図 SI05 | 18 | 第25図 SK | 31 |
| 第9図 SI06 | 19 | 第26図 SD01～05 | 32 |
| 第10図 SI07・08 (1) | 20 | 第27図 SD06～12 | 33 |
| 第11図 SI07・08 (2) | 21 | 第28図 SD13・14・SX | 34 |
| 第12図 SI09・10 | 22 | 第29図 出土遺物 (1) | 35 |
| 第13図 SI11・12・13 | 22 | 第30図 出土遺物 (2) | 36 |
| 第14図 SI14・15 (1) | 23 | 第31図 出土遺物 (3) | 37 |
| 第15図 SI14・15 (2) | 24 | 第32図 出土遺物 (4) | 38 |
| 第16図 SB・PT 分布図 | 25 | 第33図 遺構分布図 | 41 |
| 第17図 PT (1) | 24 | 第34図 調査成果と高岡壘版 | 42 |

表 目 次

| | | | |
|------------|----|-------------|----|
| 第1表 PT 計測表 | 11 | 第3表 出土遺物観察表 | 39 |
| 第2表 SK 計測表 | 13 | | |

写真図版目次

| | |
|--|-----------|
| PL 1 調査区全景 (上が北) | PL 7 出土遺物 |
| PL 2 SI01 全景 SI02 全景 SI03 全景 SI03 掘り方全景 SI04 全景 SI04 竪全景 SI05 全景 SI05 竪全景 | PL 8 出土遺物 |
| PL 3 SI06 全景 SI06 竪全景 SI07 全景 SI07 竪全景 SI08 竪全景 SI09 全景 SI10 全景 SI11～13 全景 | |
| PL 4 SI14 全景 SI14 掘り方全景 SI15 全景 SI15 掘り方全景 SD01 全景 SK32 全景 SD09 全景 SI13 全景 | |
| PL 5 SD02 全景 SD03 全景 SD04・05 全景 SD06 全景 SD07 全景 SD08 全景 SD10 全景 SD11 全景 SD12 全景 SD14 全景 SX01 全景 SX02 全景 SX03 全景 SK23 全景 SK27 全景 | |
| PL 6 SK04 全景 SK05 全景 SK10 全景 SK11 全景 SK12 全景 SK13 全景 SK15 全景 SK17 全景 SK19 全景 SK24 全景 SK28 全景 SK29 全景 SK30 全景 SK31 全景 SK33 全景 | |

I. 調査に至る経緯

平成22年10月、ケイアイスター不動産株式会社より高崎市教育委員会（以下市教委）に宅地分譲予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地が都市計画道路に伴い調査された高岡塚村遺跡に隣接し、古墳～中世に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年11月2日付けで、事業者より文化財保護法第93条の届出と試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は平成22年11月29日に工事予定地の試掘調査を実施し、部分的な攪乱はあるもののほぼ全域で古墳～中近世の遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、文化財保護法第93条の規定による回答で、道路建設予定地の記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、技研測量設計株式会社に委託して実施することとなり、平成23年2月1日付けで高崎市長・事業者・技研測量設計の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成23年2月1日付けで事業者と技研測量設計の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II. 調査の方法と経過

今回の発掘調査は試掘調査の結果から、現状保存が不可能な宅地分譲に伴う道路部分（幅6m）を該当箇所として行い、調査面積は938.39㎡である。座標は世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用している。

発掘調査は平成23年2月7日より開始した。表土掘削には0.45㎡バックホーを使用し、試掘調査の結果を参考に、高崎市教育委員会立会いのもと実施した。重機による掘削作業と並行して、人力による掘り下げを行い、遺構確認作業を進めた。検出した個別遺構は順次掘り下げ、精査、写真撮影、遺物取り上げ、測量を行った。遺構調査は、重複関係確認の上で、遺構単位で行い、遺構発露時から構築時に至る各段階を見極めながらの作業に努めた。全体の土層観察用のバルトは4分割ないし2分割とし、竪は「十」字の分割を原則とし、必要に応じて「キ」字の分割とした。3月9日にはラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行い、その後、基本層序のトレンチ調査等を実施した。3月10日に高崎市教育委員会による終了確認が行われ、3月14日に現地調査は終了した。

検出遺構の図化については電子平板を用いて平面図の測量・編集、断面図は現地で撮影した画像から、座標を保持したオルソフォトに変換して編集を行った。断面図は、一部、手実測で行い、縮尺は1/20、竪は1/10を原則とした。写真記録は35mmモノクロフィルム、35mmリバーサルフィルム、及びデジタルカメラの3機種を併用して撮影した。

報告書作成作業は、現地調査終了後に開始した。出土遺物に関しては洗浄、注記、接合・復元、実測・トレース、写真撮影、デジタル組版を、遺構図に関しては、修正、デジタルトレース、デジタル組版と作業を進め、その後、原稿執筆、校正のかたわら納品準備を行い、6月30日までに全ての作業を終了した。



第1図 遺跡位置図 (S=1/5,000)

Ⅲ. 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

高崎市は関東平野の北西端部に位置する。西に浅間山、北に榛名山、北東に赤城山等の山々を背にし、市内には浅間山、鼻曲山を水源とする烏川が碓氷川・鏡川・井野川等の支流を集めながら、北西より南東方向に流れ、玉村町・伊勢崎市域で利根川と合流する。赤城・榛名山の間に流れる利根川は前橋泥流を基盤とする前橋台地を、榛名山を水源とする中小河川は南東斜面に相馬ヶ原扇状地をそれぞれ形成し、碓氷川・烏川・井野川流域は河川の浸食により、小規模な低地と微高地が入り組んだ地形が形成されている。

本遺跡は高岡塚村に所在する。市街地から東へ約1kmの距離にあり、前橋台地西部の井野川泥流により形成された標高91～92mの微高地に位置する。北東約2kmには井野川、南西約2kmには烏川が流れ、烏川を水源とする瀧瀬用水である長野原は大橋町で一貫堀川に、高岡町で倉賀野環・矢中堰・地獄堰に分流し、それぞれ井野川や烏川に注ぎ込んでいる。本遺跡の南約4mには地獄堰が、約450mには矢中堰が東流している。

2. 歴史的環境

本遺跡の周辺では、市街地区の再開発に伴い遺跡調査は増加しているものの、旧石器時代の遺跡はこれまでに確認されていない。縄文時代の遺跡に関しては、前橋台地上の当地域ではあまり知られておらず、烏川南西部に位置する観音山丘陵や河川の段丘上に分布している。周辺では高岡高根遺跡(4)、高岡村前遺跡(6)、高岡東沖・村前遺跡(3)、城南小学校校庭遺跡(58)、下中居糸里遺跡(20)等が挙げられるが、遺構としては下中居糸里遺跡で中期後半の堅穴住居跡1軒、土坑5基が確認されたのみで、他は中期～後期の土器、石器が出土する程度であり、断片的な資料である。

弥生時代の遺跡は、烏川左岸段丘上に土器型式の指標遺跡として著名な竜見町遺跡(57)や高崎城V・VI遺跡(69)、城南小学校校庭遺跡が、烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地には高崎競馬場遺跡(23)、高岡村前遺跡、高岡塚村遺跡(2)、高岡高根遺跡、高岡東沖・村前遺跡等が所在する。これらの多くは中期～後期の遺物包蔵地、もしくは住居跡、環濠等を検出した集落遺跡であり、生産遺跡は確認されていない。

古墳時代では、集落遺跡は前時代と同様に、烏川左岸段丘上や烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地に多く立地しており、高崎城III・IV遺跡(68)、高崎城V・VI遺跡、高岡高根遺跡、高岡東沖・村前遺跡、高岡村前遺跡、上中居辻栄師II遺跡(11)、双葉町I遺跡(60)、新後閑寺遺跡(55)、新後閑遺跡(54)等が挙げられる。生産遺跡としては東町III遺跡(30)においてAs-Cに覆われた水田跡と、Hr-FA・Hr-FPを含む洪水層に覆われた水田跡が、高岡東沖・村前遺跡では後期の畠跡が確認されている。上中居辻栄師II遺跡、中居町「J」遺跡(88)、中居町遺跡群(89)では方形周溝墓が確認されている。古墳は5世紀後半築造と推定される越後塚古墳(24)、5世紀後半～6世紀前半築造とされる聖天山古墳(61)、6世紀後半の井野川中流域における中核をなす首長墓と考えられている五雲神社古墳(62)、浜尻天王山古墳(53)等が周辺に所在する。

奈良・平安時代になると、律令制に伴い桑里地制に基づく大規模な耕地開発が行われた。本遺跡周辺においても高岡北沖遺跡(5)、上中居平塚II遺跡(16)、高岡塚田遺跡(8)、岡久保遺跡(37)等数多くの遺跡がAs-Bに覆われた水田跡が確認されている。集落も近辺の微高地に営まれ、高崎城III・IV遺跡、高崎城V・VI遺跡、高崎城VII遺跡(70)、高岡村前遺跡、高岡高根遺跡、新後閑寺遺跡、新後閑遺跡等で当該期の住居跡等が確認されている。

中世になると微高地には城館・環濠屋敷が築かれる。高崎市域の武士としては寺尾・山名・倉賀野・綿貫・橋本・和田・長野の各氏が挙げられる。本遺跡周辺は和川氏の領域に含まれ、和田氏に關係する一族の屋敷が地獄環、矢中堰に沿うように分布する。本調査地点は角田氏の屋敷である高岡屋敷(79)に位置している。「高崎近郷村々百姓由緒書」によると角田氏は和田氏の一族で天正十八年(1590)、小田原落城による和田氏の没落に伴い、角田主水が高



1. 高麗・聖村遺跡(本調査地点) 2. 高岡塚村遺跡 3. 高岡東沖・村前遺跡 4. 高岡高祝遺跡 5. 高岡北沖遺跡 6. 高岡村前遺跡 7. 高岡村前II遺跡 8. 高岡塚田遺跡 9. 高岡東沖II遺跡 10. 上中層止部跡遺跡 11. 上中層止部跡II遺跡 12. 上中層西垣敷遺跡 13. 上中層西垣敷II遺跡 14. 上中層西垣敷III遺跡 15. 上中層平塚I遺跡 16. 上中層平塚II遺跡 17. 上中層平塚III遺跡 18. 上中層荒神I遺跡 19. 上中層高橋跡遺跡 20. 下中層桑原遺跡 21. 岩押町I遺跡 22. 岩押町II遺跡 23. 高岡築島場遺跡 24. 進後塚古墳 25. 栄町I遺跡 26. 栄町II遺跡 27. 栄町III遺跡 28. 東町I遺跡 29. 東町II遺跡 30. 東町III遺跡 31. 東町IV遺跡 32. 東町V遺跡 33. 東町VI遺跡 34. 旭町I遺跡 35. 真町I遺跡 36. 江本阪跡西遺跡 37. 西久保遺跡 38. 上大塚北宅址遺跡 39. 上大塚南跡遺跡 40. 飯塚大菅代遺跡 41. 飯塚十一前遺跡 42. 飯塚東金井I・II遺跡 43. 飯塚西金井遺跡 44. 貝沢I遺跡 45. 貝沢大跡遺跡 46. 大塚村西遺跡 47. 天田・川押遺跡 48. 新保八坂遺跡 49. 日光町I・II遺跡 50. 關保町II遺跡 51. 飯土I・II遺跡 52. 浜民宅跡遺跡 53. 高尾天王山古墳 54. 新保間遺跡 55. 新保間寺跡遺跡 56. 和田多中遺跡 57. 嵯峨町遺跡 58. 城南小学校校庭遺跡 59. 上在野跡遺跡 60. 泉茶町I遺跡 61. 聖天山古墳 62. 五蓋神社古墳 63. 高松城遺跡 64. 高松町遺跡 65. 高松第I駐平地遺跡 66. 高松城I遺跡 67. 高松城II遺跡 68. 高松城III・IV遺跡 69. 高松城V・VI遺跡 70. 高松城VII 71. 高松城VIII 72. 高松城IX 73. 高松城X 74. 反町城 75. 興田屋敷 76. 新保壱 77. 和田下之城 78. 江本塚遺跡 79. 高岡屋敷 80. 下中層新井屋敷 81. 高尾屋敷 82. 下中層生原屋敷 83. 下中層福田屋敷 84. 進後塚敷 85. 火尻屋敷 86. 宇宅家環濠遺跡 87. 新保間屋敷 88. 中野町・丁目遺跡 89. 中野町遺跡群

第2図 周辺遺跡図(1/25,000)

関へ移ったとされる。高岡高根遺跡では大型区画溝や土坑・井戸が、高岡塚村遺跡、高岡村前遺跡、高岡村前Ⅱ遺跡(7)では環濠黒敷跡が、上中居土楽師遺跡(10)、上中居土楽師Ⅱ遺跡では「反町屋敷」といわれる中世居館跡が確認されている。尚、灌漑水路である長野埋水系は、中世末期に長野氏がその基礎を整備したという伝承がある。

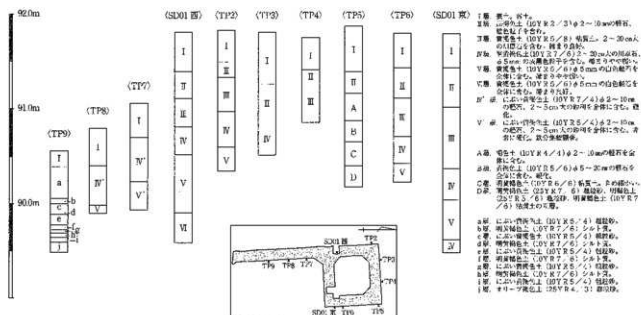
近世になると慶長三年(1598)、井伊直政が箕輪城から高崎城へと拠点を移したことにより城下町が形成される。現在のJ高崎駅西口周辺を中心に町屋や社寺が建ち並び、また、中山道と三四街道が走る交通の要衝でもあり宿場町としても繁栄する。周辺では高岡塚村遺跡で掘立柱建物等が、上中居土楽師遺跡、上中居土楽師Ⅱ遺跡では中世から継続する居館の一部が調査されている。

IV. 基本層序

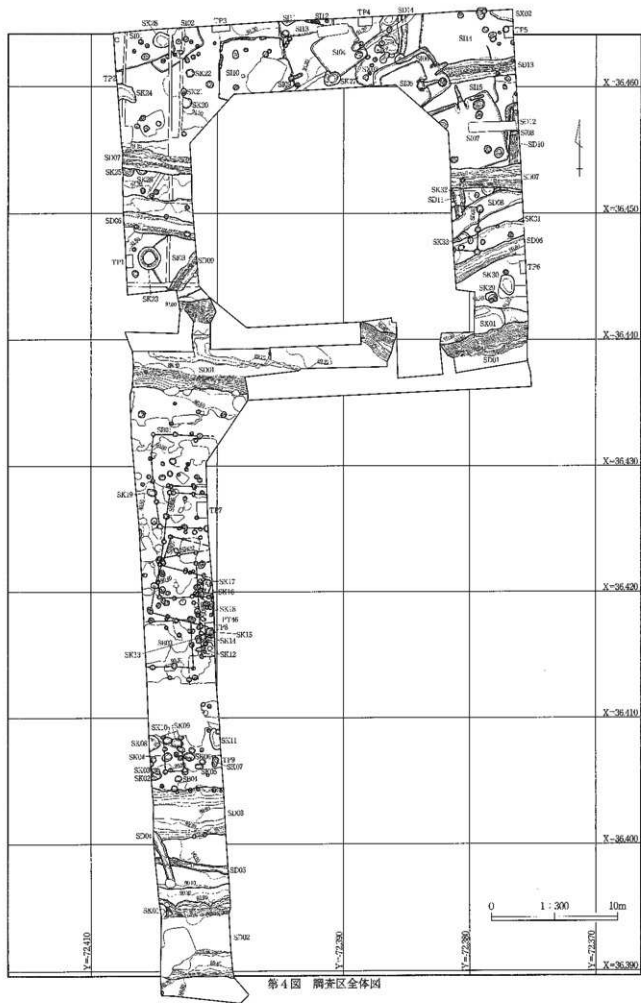
本調査地の現況は北から南へ傾斜する地形であり、調査地中央部のやや北寄りには、東西方向に走行する扇状の落ち込みが存在している。現地表の標高はこの扇状の落ち込みを境に、北部が91.8m前後、南部は北端が91.1m、南端が90.1mを測る。現地表下30～50cmは現代の造成客土、表土層(I層)で、以下、φ2～10mmの軽石、橙黄色粒子を含む黒褐色土(Ⅱ層)、2～20cm大の川原石を含み、締まり良好な黄褐色粘質土(Ⅲ層)、2～20cm大の川原石、φ5mmの灰黒色粒子を含み、締まりのやや弱い明黄褐色土(Ⅳ層)、φ5mmの白色軽石を全体に含み、締まりのやや弱い黄褐色土(Ⅴ層)、φ5mmの白色軽石を全体に含み、締まりの良好な黄褐色土(Ⅵ層)が堆積している。

I層からⅥ層の間には、As-B混土や暗褐色土も確認されているが、断片的である。Ⅱ層はAs-C混土で、部分的に縄文時代中期～古墳時代前期の遺物を包含している。Ⅲ層はTP3ではφ2～20mmの軽石を含み、また、TP4周辺では粗粒砂となり、土質に変化が認められる。Ⅳ層はTP3ではφ2～20mmの軽石を含み、また、TP4周辺では粗粒砂となり、土質に変化が認められる。Ⅴ層はTP3ではφ2～10mmの軽石、2～5cm大の砂利を全体に含み、硬化したにぶい黄褐色土(Ⅳ'層)、φ2～10mmの軽石、2～5cm大の砂利を全体に含み、非常に硬化し、鉄分集積の顕著なにぶい黄褐色土となる。堆積状況としては、調査区南外の地獄塚に向かい、緩やかに傾斜している。

基本層序と異なる堆積土としては、TP5におけるⅢ層以下の、φ2～10mmの軽石を全体に含む褐色土(A層)、φ5～20mmの軽石を全体に含み、硬化した黄褐色土(B層)、きめの細かい明黄褐色粘質土(C層)、明黄褐色粗粒砂、明褐色粗粒砂、及び明黄褐色粘質土の互層(D層)と、TP9における表土以下の、にぶい黄褐色粗粒砂とシルト質明黄褐色土の互層(a層～i層)、オリブ褐色細粒砂(j層)であり、水流を伴う谷筋の存在が想定される。



第3図 基本層序



第4图 闸门区全体图

V. 検出された遺構と遺物

1. 調査概要 (第4図、PL.1)

今回の調査では竪穴住居跡15軒、土坑3基、ピット200口、溝14条、及び性格不明遺構3基を検出した。遺構の時期としては古墳時代、奈良・平安時代、及び中世・近世であり、主体となるのは古墳時代前期・後期の竪穴住居跡、溝と、中世・近世の土坑、ピット、溝である。尚、整理作業の段階で200口のピットから掘立柱建物と8棟復元している。遺物としては縄文時代の土器・石器、弥生土器、土師器、須恵器、石製品、金属製品、中世・近世の陶磁器類・在地系土器等が出土し、コンテナ15箱を数える。

2. 遺構・遺物

(1) 竪穴住居跡 (第5～15・29～31図、PL.2～4・7)

竪穴住居跡は調査区北部から15軒検出している。平面は方形を呈し、時期としては古墳時代前期のものと同墳時代後期のものが主体であり、重複する割合は高いといえる。前期のものは北端部から5軒を検出しているが、部分的な検出にとどまり、全体規模や炉等を確認できたものはない。後期のものは8軒を検出し、規模から一辺3.00m前後のもの、5.00m前後のものに別人可能である。基本的には東壁に竈を構築している。

SI01 (第5・29図、PL.2・7)

位置 調査区北西端部 (X = 461～464, Y = 403～405) 重複 SK28に先行し、SI02より後出する。形状・規模 平面は方形を呈するものと考えられる。東西[4.98] m × 南北[2.96] m、壁現高0.25 m、床面積 [13.39] m²を測る。北部、西部は調査区外となる。主軸方位 N - 16° - W。床面 ほぼ平坦な地山硬化床で、南東部の硬化が顕著である。住居内施設 南部から4口のピットを検出した。いずれも平面は円形を呈し、規模はPT1が東西0.63 m × 南北0.51 m × 深さ0.39 m、PT2が東西0.36 m × 南北0.32 m × 深さ0.29 m、PT3が東西0.39 m × 南北0.35 m × 深さ0.42 m、PT4が東西0.26 m × 南北0.30 m × 深さ0.22 mを測る。炉 検出されていない。

出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器31点、弥生土器10点、土師器271点である。図示し得た実測個体資料は第29図SI01-1～4で、1・2は覆土、3・4は床面出土である。いずれも土師器製で、2は脚部、3はS字状口縁台付甕 (以下、「S字甕」と略称) である。時期 出土遺物より古墳時代前期と考えられる。

SI02 (第5図、PL.2)

位置 調査区北西端部 (X = 461～464, Y = 401～405) 重複 SI01、SK28、PT143・147・159～162に先行する。形状・規模 平面は方形を呈するものと考えられる。東西4.47 m × 南北[2.20] m、壁現高0.18 m、床面積 [12.25] m²を測る。西部はSI01により失い、北部は調査区外となる。主軸方位 N - 35° - W。床面 ほぼ平坦な地山硬化床で、全体的に硬化している。住居内施設 南西部から2口のピットを検出した。いずれも平面は楕円形を呈し、規模はPT1が東西0.35 m × 南北0.33 m × 深さ0.44 m、PT2が東西0.27 m × 南北0.32 m × 深さ0.28 mを測る。炉 検出されていない。出土遺物 出土していない。時期 遺構の重複関係より古墳時代前期と考えられる。

SI03 (第6・21図、PL.2・7)

位置 調査区北西部 (X = 443～448, Y = 401～405) 重複 SD06、SK23に先行し、SD09より後出する。形状・規模 平面は方形を呈するものと考えられる。東西[4.05] m × 南北4.97 m、壁現高0.25 m、床面積 [16.18] m²を測る。東部は調査区外となる。主軸方位 N - 33° - W。床面 ほぼ平坦な貼り床で、中央部の硬化が顕著である。住居内施設 掘り方精査時に6口のピットと土坑1基を検出した。ピットの平面は円形～楕円形を呈し、規模はPT1が東西0.40 m × 南北0.42 m × 深さ0.32 m、PT2が東西0.31 m × 南北0.29 m × 深さ0.25 m、PT3が東西0.26 m × 南北0.30 m × 深さ0.46 m、PT4が東西0.24 m × 南北0.30 m × 深さ0.75 m、PT5が東西0.29 m × 南北0.27 m × 深さ0.36 m、PT6が東西0.53 m × 南北0.53 m × 深さ0.29 mを測る。SK1は中央部から検出された

床下土坑である。平面は円形を呈し、規模は東西1.28 m × 南北1.20 m × 深さ0.24 mを測る。竈 焼土・灰の検出状況から東壁に位置するものと考えられる。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器10点、弥生土器1点、土師器194点である。図示し得た実測個体資料は第29図SI03-1~10で、1・3~10は床面、2は覆土からの出土である。1・2は土師器坏、3~10は土師器甕で、3~5は長胴、6・7は球胴、8~10は小型である。時期 出土遺物より古墳時代後期（6世紀代）と考えられる。

SI04（第7・30図、PL.2・7）

位置 調査区北端部中央（X = 460~464、Y = 388~392）重複 SK27に先行し、SX03より後出する。形状・規模 平面は方形を呈する。東西3.56 m × 南北3.25 m、壁現高0.26 m、床面積11.65 m²を測る。主軸方位 N - 59° - E。床面 はほぼ平坦な貼り床である。住居内施設 竈の南側で貯蔵穴を検出した。平面は楕円形状を呈し、東西0.60 m × 南北0.52 m × 深さ0.43 mを測る。また、掘り方精査時にPT1を検出した。平面は楕円を呈し、規模は東西0.39 m × 南北0.48 m × 深さ0.15 mを測る。竈 東壁の中央やや南寄りに位置する。袖は黄褐色粘質土により構築されている。燃焼部は壁内に位置し、確認長1.01 m、燃焼部幅0.55 mを測り、煙道は短い。袖の残存長は北側が0.50 m、南側が0.55 mを測る。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器19点、弥生土器1点、土師器148点、黒曜石の剥片1点である。図示し得た実測個体資料は第30図SI04-1・2で、床面からの出土である。1は土師器鉢、2はこも漏石である。時期 出土遺物より古墳時代後期と考えられる。

SI05（第8・30図、PL.2・7）

位置 調査区北端部東側（X = 458~462、Y = 382~387）重複 SI06、SD13、SX03より後出する。形状・規模 平面は方形を呈する。東西3.58 m × 南北3.58 m、壁現高0.28 m、床面積[7.94] m²を測る。南西部は調査区外となる。主軸方位 N - 62° - E。床面 はほぼ平坦で、若干の硬化が認められる。住居内施設 検出されていない。竈 東壁の中央やや南寄りに位置する。袖は黄褐色粘質土により構築されている。燃焼部は壁内に位置し、奥行き0.58 m、幅0.55 m、煙道は長さ1.20 m、幅0.26 mを測る。袖の残存長は北側が0.80 m、南側が0.72 mを測る。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器7点、弥生土器4点、土師器221点、須恵器2点、石製品1点である。図示し得た実測個体資料は第30図SI05-1・2で、1は床面、2は竈掘り方からの出土である。1は土師器坏、2は滑石製の白瓦である。時期 出土遺物より古墳時代後期（7世紀代?）と考えられる。

SI06（第9・30図、PL.3・7）

位置 調査区北端部東側（X = 458~463、Y = 381~387）重複 SI05に先行し、SD13、SX03より後出する。形状・規模 平面は方形を呈する。東西4.10 m × 南北5.20 m、壁現高0.35 m、床面積[16.07] m²を測る。南西部は調査区外となる。主軸方位 N - 77° - E。床面 はほぼ平坦で、若干の硬化が認められる。住居内施設 竈の南側で貯蔵穴を検出した。平面は楕円形状を呈し、東西0.60 m × 南北0.52 m × 深さ0.47 mを測る。掘り方精査時には南側で4口のピットを検出した。ピットの平面は円形~楕円形を呈し、規模はPT1が東西0.27 m × 南北0.23 m × 深さ0.47 m、PT2が東西0.30 m × 南北0.28 m × 深さ0.32 m、PT3が東西0.39 m × 南北0.37 m × 深さ0.37 m、PT4が東西0.35 m × 南北0.33 m × 深さ0.23 mを測る。また、北側では平面不整形の浅い窪みを東西方向に3穴検出している。竈 東壁の中央に位置する。袖は黒褐色土により構築されている。燃焼部は壁内に位置し、奥行き0.65 m、幅0.60 m、煙道は長さ0.70 m、幅0.36 mを測る。袖の残存長は北側が0.61 m、南側が0.65 mを測る。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器33点、弥生土器4点、土師器321点である。図示し得た実測個体資料は第30図SI06-1・2で、1は床面、2はPT01覆土から出土した土師器甕である。時期 出土遺物より古墳時代後期（6世紀代?）と考えられる。

SI07（第10・11・30図、PL.3・7）

位置 調査区北部東側（X = 453~460、Y = 376~383）重複 SD07・10に先行し、SI08・15より後出する。形状・規模 平面は方形を呈する。東西[4.85] m × 南北5.62 m、壁現高0.26 m、床面積[23.44] m²を測る。西部は調査区外となる。主軸方位 N - 20° - W。床面 はほぼ平坦で、若干の硬化が認められる。住居内施設 竈周溝

が北壁に残存する。竈の東側では貯蔵穴を検出している。平面は楕円形状を呈し、東西0.88 m × 南北0.75 m × 深さ0.41 mを測る。ピットは主柱穴の4口を確認した。ピットの平面は円形～楕円形状を呈し、規模はPT1が東西[0.50] m × 南北0.70 m × 深さ0.62 m、PT2が東西0.50 m × 南北0.64 m × 深さ0.44 m、PT3が東西0.55 m × 南北0.57 m × 深さ0.57 m、PT4が東西0.61 m × 南北0.50 m × 深さ0.53 mである。芯～芯距離は東西方向が3.00 m、南北方向が西辺で2.70 m、東辺で2.80 mを測る。掘り方精査時には南部中央にて2口のピットを検出している。平面は楕円形を呈し、規模はPT5が東西0.57 m × 南北0.46 m × 深さ0.19 m、PT6が東西0.32 m × 南北0.26 m × 深さ0.30 mを測る。竈 北壁のほぼ中央に位置する。構築材には灰黄褐色粘質土を使用している。燃焼部は壁内に位置し、奥行き0.70 m、幅0.45 m、煙道は長さ1.33 m、幅0.28 mを測る。袖の残存長は西側が0.80 m、東側が0.75 mを測る。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器3点、弥生土器5点、土師器789点、須恵器2点である。図示し得た実測個体資料は第30図 SI07-1～5で、1は掘り方、2～5は床面からの出土である。1・2は土師器鉢、3は土師器杯、4・5土師器甕で4は長胴、5は小型である。1・2は後述するSI15、或いはSD13からの混入と考えられる。時期 出土遺物より古墳時代後期（6世紀代）と考えられる。

SI08 (第10・11図、PL.3)

位置 調査区北部東側 (X = 453 ~ 458, Y = 376 ~ 382) 重複 SI07、SD07-10に先行し、SI15、SD11より後出する。形状・規模 SI07は本址を北側に拡張し、カマドを北壁に作り直したものと考えられる。SI07掘り方の検出状況から平面は方形を呈し、東西[4.50] m × 南北4.95 m、壁現高0.25 m、床面積[22.17] m²の規模を想定している。西部は調査区外となる。主軸方位 N-75°-E (竈)。床面 不詳 住居内施設 竈の南側では貯蔵穴を検出している。平面は楕円形を呈し、東西0.82 m × 南北0.68 m × 深さ0.48 mを測る。竈 東壁に位置する。煙道部のみの検出で、長さ[1.12] m、幅0.42 mを測る。出土遺物 接合作業後の破片数は弥生土器1点、土師器28点である。図示し得た個体資料はない。時期 遺構の重複関係より古墳時代後期（6世紀代）と考えられる。

SI09 (第12・30図、PL.3・7)

位置 調査区北端部中央 (X = 459 ~ 462, Y = 393 ~ 395) 重複 SI10より後出する。形状・規模 平面は方形を呈する。東西[2.10] m × 南北2.50 m、壁現高0.09 m、床面積[3.71] m²を測る西半部は現代擾乱により失う。主軸方位 N-70°-E。床面 ほぼ平坦な貼り床である。住居内施設 検出されていない。竈 東壁の南寄りに位置する。袖は灰黄褐色粘質土により構築されている。燃焼部は壁内に位置し、奥行き0.43 m、燃焼部幅0.35 mを測り、煙道は長さ0.72 m、幅0.26 mを測る。袖の残存長は北側が0.20 m、南側が0.11 mを測る。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器1点、弥生土器2点、土師器44点、須恵器2点である。図示し得た実測個体資料は第30図 SI09-1で、覆土から出土した須恵器提瓶である。時期 出土遺物より古墳時代後期（7世紀代）と考えられる。

SI10 (第12・30図、PL.3・7)

位置 調査区北端部西側 (X = 458 ~ 463, Y = 394 ~ 399) 重複 SI09、PT150に先行する。形状・規模 平面は方形を呈する。東西5.11 m × 南北[4.80] m、壁現高0.05 m、床面積[26.48] m²を測る。南部は調査区外となる。主軸方位 N-90°-E。床面 ほぼ平坦で、中央部は地山を削り出している。住居内施設 壁周溝が北壁と西壁の一部に残存する。ピットは4口を確認した。ピットの平面は円形～楕円形を呈し、規模はPT1が東西0.44 m × 南北0.39 m × 深さ0.31 m、PT2が東西0.43 m × 南北0.43 m × 深さ0.61 m、PT3が東西0.28 m × 南北0.29 m × 深さ0.12 m、PT149として検出したものが東西0.65 m × 南北0.45 m × 深さ0.51 mを測る。芯～芯距離は東西が2.40 ~ 2.70 m、南北が2.70 mである。竈 東壁に位置していた可能性が高いが、SI09、現代擾乱により削平されたものと考えられる。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器14点、土師器76点、須恵器1点である。図示し得た実測個体資料は第30図 SI10-1・2で、1はPT1、2は掘り方出土の土師器S字甕で、2は小型である。時期 図示遺物は古墳時代前期のものであるが、他の出土遺物、及び遺構の重複関係より古墳時代後期（6世紀代?）と考えられる。

SI11 (第13図、PL.3)

位置 調査区北端部中央 (X = 464 ~ 465, Y = 393 ~ 394) **重複** SI13より後出する。**形状・規模** 平面は方形を呈するか。東西 [0.80] m × 南北 [0.60] m、壁現高 0.49 m、床面積 (0.19) m²を測る。大半は調査区北外となる。**主軸方位** N - 60° - E へ。**床面** ほほ平坦で、地山を削り出している。**住居内施設** 検出されていない。**竈** 検出されていない。**出土遺物** 接合作業後の破片数は土師器 8 点である。図示し得た個体資料はない。**時期** 遺構の重複関係より古墳時代後期か。

SI12 (第13・30図、PL.3・7)

位置 調査区北端部中央 (X = 461 ~ 465, Y = 390 ~ 393) **重複** SI13より後出する。**形状・規模** 平面は方形を呈するか。東西 [2.35] m × 南北 [0.53] m、壁現高 0.18 m、床面積 (0.55) m²を測る。大半は調査区北外となる。**主軸方位** N - 100° - E へ。**床面** ほほ平坦で、地山を削り出している。**住居内施設** 南壁沿いに小穴が3口、南東部にピットを1口確認した。PT1は平面楕円形を呈し、東西 0.27 m × 南北 0.24 m × 深さ 0.22 m を測る。**竈** 検出されていない。**出土遺物** 接合作業後の破片数は土師器 13 点である。図示し得た実測個体資料は第30図 SI12 - 1 で、覆土出土の土師器片である。**時期** 出土遺物から7世紀後半～8世紀前半か。

SI13 (第13・30図、PL.3・7)

位置 調査区北端部中央 (X = 463 ~ 465, Y = 391 ~ 395) **重複** SI11・12に先行する。**形状・規模** 平面は方形を呈するものと考えられる。東西 [3.64] m × 南北 [1.32] m、壁現高 0.20 m、床面積 (3.19) m²を測る。大半は調査区北外となる。**主軸方位** N - 80° - E へ。**床面** ほほ平坦で、地山を削り出している。**住居内施設** 南西部にピットを1口確認した。PT1は平面楕円形を呈し、東西 0.53 m × 南北 0.46 m × 深さ 0.12 m を測る。**炉** 検出されていない。**出土遺物** 接合作業後の破片数は縄文土器 7 点、土師器 35 点である。図示し得た実測個体資料は第30図 SI13 - 1・2 で、1は床面出土の土師器片付窯、2は覆土出土の土師器 S 字窯である。**時期** 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

SI14 (第14・15・30図、PL.4・7)

位置 調査区北端部東側 (X = 462 ~ 466, Y = 378 ~ 384) **重複** SI06、SD13、PT194・196 ~ 198に先行し、SI15より後出する。**形状・規模** 平面は方形を呈するものと考えられる。東西 [4.50] m × 南北 [4.13] m、壁現高 0.12 m、床面積 [18.79] m²を測る。北部は調査区外となる。**主軸方位** N - 3° - E へ。**床面** ほほ平坦で、中央部は地山を削り出し、非常に硬化している。**住居内施設** ピットは6口を確認した。平面は円形～楕円形状を呈し、規模はPT1が東西 0.26 m × 南北 0.27 m × 深さ 0.16 m、PT2が東西 0.37 m × 南北 0.39 m × 深さ 0.25 m、PT3が東西 0.24 m × 南北 0.26 m × 深さ 0.15 m、PT4が東西 0.34 m × 南北 0.52 m × 深さ 0.32 m、PT5が東西 0.27 m × 南北 0.24 m × 深さ 0.17 m、PT6が東西 0.32 m × 南北 0.35 m × 深さ 0.20 m、を測る。PT2 - PT3の芯～芯距離は 2.80 m である。**炉** 検出されていない。**出土遺物** 接合作業後の破片数は縄文土器 64 点、弥生土器 9 点、土師器 261 点である。図示し得た実測個体資料は第30図 SI14 - 1 ~ 3 で、覆土からの出土した土師器片で、2・3は S 字窯である。**時期** 出土遺物より古墳時代前期と考えられる。

SI15 (第14・15・31図、PL.4・7)

位置 調査区北端部東側 (X = 457 ~ 463, Y = 377 ~ 383) **重複** SI05 ~ 08・14、SD13に先行する。**形状・規模** 平面は方形を呈するものと考えられる。東西 [6.10] m × 南北 [4.10] m、壁現高 0.13 m、床面積 [18.43] m²を測る。北部はSI14、西部はSI06、南部はSI07、中央部はSD13により削平をうけている。**主軸方位** N - 7° - W へ。**床面** ほほ平坦で、硬化が認められる。**住居内施設** 掘り方調査時にピット 8 口と床下土坑 1 基を検出している。ピット平面は円形～楕円形状を呈し、規模はPT1が東西 0.31 m × 南北 0.32 m × 深さ 0.10 m、PT2が東西 0.42 m × 南北 0.35 m × 深さ 0.13 m、PT3が東西 0.25 m × 南北 0.24 m × 深さ 0.11 m、PT4が東西 0.25 m × 南北 0.33 m × 深さ 0.24 m、PT5が東西 0.40 m × 南北 0.49 m × 深さ 0.34 m、PT6が東西 0.44 m × 南北 0.37 m × 深さ 0.22 m、PT7が東西 0.35 m × 南北 0.43 m × 深さ 0.18 m、PT8が東西 0.42 m × 南北 0.32 m × 深さ 0.34

mを測る。芯～芯距離はPT1 - PT2 - PT3が2.60 m、1.40 m、PT7 - PT8が1.50 m、PT2 - PT7が3.30 m、PT3 - PT8が3.20 mである。SK1は平面楕円形を呈し、規模は東西0.84 m × 南北0.92 m × 深さ0.23 mを測る。炉 検出されていない。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器28点、弥生土器3点、土師器230点、黒曜石の剥片1点である。図示し得た実測個体資料は第31図SI15 - 1～7で、1・2、4～7は床面、3は掘り方からの出土である。1は土師器高坏の脚部、2は土師器高坏もしくは器台の脚部、3は土師器器台の脚部、4～7は土師器甕で、5・6はS字甕、7は小型である。時期 出土遺物より古墳時代前期と考えられる。

(2) ビット・掘立柱建物 (第16～24図)

今回の調査では200口のビットを確認している(第16～20図)。調査区のほぼ全域で検出されているが、南半部に集中する傾向にある。位置・規模・出土遺物等の詳細はPT計測表(第1表)に掲載しているので参照されたい。出土遺物は小片・細片のみであり、図示し得た実測個体はない。整理作業の段階でこれらのビットから掘立柱建物を8棟(SB01～08)抽出している。いずれも中世以降の建物と考えている。以下、個別に説明を加える。

SB01 (第21図)

位置 調査区中央部(X = 424～432, Y = 401～405) 規模等 PT081・084・088・099・117・127・133・134・136の9口により構成される東西2間×南北4間を抽出した。東部は調査区外となろうか。主軸方位 N - 4° - W。芯～芯距離 北辺が西から1.75 m、1.90 m、西辺が北から1.90 m、1.80 m、1.70 m、2.00 m、南辺が西から2.00 m、1.60 mを測る。

SB02 (第22図)

位置 調査区中央部(X = 419～423, Y = 400～404) 規模等 PT055・059・060・062・069・078・115・140の8口により構成される東西3間×南北2間を抽出した。東部は調査区外となる。主軸方位 N - 2° - W。芯～芯距離 北辺が西から1.70 m、1.35 m、西辺が北から1.70 m、1.25 m、南辺が西から1.20 m、1.40 m、1.35 mを測る。重複 PT077・078・079の重複関係から本址はSB06に先行し、SB07より後出である。

SB03 (第22図)

位置 調査区中央部(X = 413～417, Y = 400～405) 規模等 PT034・035・036・040・047・048・051の7口により構成される東西2間×南北2間を抽出している。西部は調査区外となろうか。主軸方位 N - 3° - W。芯～芯距離 北辺が西から2.00 m、1.30 m、東辺が北から2.10 m、1.90 m、南辺が西から1.70 m、1.50 mを測る。

SB04 (第22図)

位置 調査区南部(X = 405～408, Y = 402～404) 規模等 PT012・014・021・022・028・029の6口により構成される東西1間×南北2間を抽出している。本址の西部は調査区外となろうか、北側も大きく攪乱されており、詳細不明である。主軸方位 N - 3° - W。芯～芯距離 北辺が1.50 m、西辺が北から1.00 m、1.80 m、南辺が西から1.60 m、東辺が北から1.00 m、1.70 mを測る。

SB05 (第23図)

位置 調査区中央部(X = 414～422, Y = 400～401) 規模等 PT037・064・072・105・110の5口により構成される南北4間を抽出している。建物は東側に展開するものと想定される。主軸方位 N - 3° - W。芯～芯距離 北から1.90 m、2.30 m、1.70 m、1.90 mを測る。

SB06 (第23図)

位置 調査区中央部(X = 421～428, Y = 400～404) 規模等 PT075・077・089・092・112・120・121・123・124の9口により構成される北側に庇の付く東西2間×南北3間を抽出している。東部は調査区外となる。主軸方位 N - 8° - W。芯～芯距離 北辺が1.80 m～1.90 m、西辺が北から0.60 m、1.90 m、2.00 m、1.80 m、南辺が西から2.10 m、1.50 mを測る。重複 PT077・078・079の重複関係から本址はSB02、SB07より後出である。

(3) 土坑 (第24・25・31図、PL.4～6・8)

今回の調査では33基の土坑を確認している(第24・25図)。調査区はほぼ全域で検出されており、特に偏在する傾向は示していない。土坑制別の位置・規模・出土遺物等の詳細はSK計測表(第2表)に掲載しているので参照されたい。尚、SK32では土師器甕が土師器壺の下半部を合わせ口状に被せ、横位に設置した状態で検出されており、土器棺葬の可能性が高い。土器棺の主軸方向はN-128°-Eを測り、土器内からの出土遺物はない。SK23では底面の壁際に周溝状の浅い窪みを検出している。

以下、第31図に示した実測個体資料について略記し、詳細は出土遺物観察表(第3表)を参照されたい。SK11はかわらけ。SK15は瀬戸・美濃柳茶碗。SK27 1・2は土師器杯。SK28 1は土師器甕。SK32 1は土師器甕で土器棺の身、2は土師器壺で土器棺の蓋として使用されたものである。

第2表 SK計測表

| 名称 | 経緯度 | | 位置 | 規模 | 形状 | 出土遺物 | 備考 |
|------|-----|-----|----------|-------------|------|------|------|
| | X | Y | | 長さ | 幅 | | |
| SK01 | 384 | 405 | SK00E北東行 | 1.00 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | |
| SK02 | 431 | 404 | 403 | 0.75 × 0.65 | 0.35 | 土師器 | |
| SK03 | 430 | 405 | 405 | 0.95 × 0.70 | 0.40 | 土師器 | |
| SK04 | 438 | 407 | 411 | 0.70 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | |
| SK05 | 430 | 404 | 404 | 0.80 × 0.61 | 0.35 | 土師器 | |
| SK06 | 406 | 407 | 410 | 0.75 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 空穴あり |
| SK07 | 406 | 399 | 400 | 0.75 × 0.52 | 0.30 | 土師器 | |
| SK08 | 407 | 403 | 404 | 1.15 × 0.70 | 0.40 | 土師器 | |
| SK09 | 430 | 404 | 405 | 0.80 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | |
| SK10 | 436 | 403 | 404 | 0.70 × 0.50 | 0.30 | 土師器 | |
| SK11 | 437 | 404 | 404 | 0.75 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | かわらけ |
| SK12 | 426 | 411 | 411 | 0.75 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK13 | 415 | 416 | 413 | 0.70 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK14 | 418 | 416 | 416 | 0.75 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK15 | 410 | 417 | 410 | 0.64 × 0.57 | 0.32 | 土師器 | 土師器 |
| SK16 | 410 | 400 | 401 | 0.75 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK17 | 409 | 401 | 401 | 1.05 × 0.64 | 0.40 | 土師器 | 土師器 |
| SK18 | 418 | 400 | 400 | 0.70 × 0.58 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK19 | 427 | 405 | 404 | 0.75 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK20 | 436 | 400 | 402 | 0.80 × 0.55 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK21 | 409 | 401 | 401 | 0.80 × 0.61 | 0.34 | 土師器 | 土師器 |
| SK22 | 400 | 404 | 404 | 0.64 × 0.66 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK23 | 445 | 447 | 406 | 1.77 × 1.17 | 0.36 | 土師器 | 土師器 |
| SK24 | 418 | 411 | 411 | 0.42 × 0.33 | 0.20 | 土師器 | 土師器 |
| SK25 | 433 | 384 | 406 | 0.70 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK26 | 428 | 395 | 406 | 0.70 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK27 | 400 | 401 | 401 | 1.30 × 1.10 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK28 | 401 | 404 | 404 | 1.30 × 1.10 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK29 | 403 | 415 | 415 | 1.00 × 1.15 | 0.40 | 土師器 | 土師器 |
| SK30 | 403 | 415 | 415 | 1.00 × 1.15 | 0.40 | 土師器 | 土師器 |
| SK31 | 428 | 419 | 419 | 0.75 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK32 | 441 | 425 | 425 | 0.70 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |
| SK33 | 424 | 390 | 390 | 0.80 × 0.60 | 0.30 | 土師器 | 土師器 |

(4) 溝 (第26～28図、PL.4・5・8)

溝は14条を検出している。走行方向は東西が8条、南北が6条で、規模・形状等から中近世の漆や古墳時代の環濠と考えられるものもみられ、多様な機能・性格等が想定される。

SD01 (第26・31図、PL.4・8)

位置 調査区中央部 (X = 435 ~ 443, Y = 375 ~ 406) 重複 SK01より後出する。走行方位 N-92°-E ~ N-79°-E。規模 検出長 [3.20] m、上幅 6.85 ~ 7.00 m、下幅 4.15 ~ 4.20 m、深さ 2.35 m、底面の標高は西側で 89.38 m、東側で 89.22 m を測る。形状等 やや蛇行気味に東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で東側が低い。底面上に湛水の痕跡として粗粒砂の堆積を確認している。調査着手の直前まで、漆の存在が想定される規模の窪みが観察されていた。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器 19点、近世陶磁器 2点、近現代陶磁器多数である。図示し得た実測個体資料は第31図 SD01-1・2で覆土からの出土である。1は肥前系染付徳利、2は美濃鋪輪徳利である。時期 堆積状況、及び出土遺物から近世以降と想定されるが、開削は中世まで遡る可能性もあろう。

SD02 (第26・31図、PL.5・8)

位置 調査区南部 (X = 389 ~ 396, Y = 398 ~ 404) 重複 SK01より後出する。走行方位 N-90°-E。規模 検出長 [5.65] m、上幅 6.95 ~ 7.30 m、下幅 2.68 ~ 3.00 m、深さ 1.13 m、底面の標高は 89.35 m 前後を測る。形状等 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、南側が 0.20 m 程高い段となる。底面上に湛水の痕跡としてシルト質土、川原石の堆積を確認している。出土遺物 接合作業後の破片数は中近世在地系軟質土器 1点、近世陶磁器 2点、近現代陶磁器 3点である。図示し得た実測個体資料は第31図 SD02-1・2で覆土からの出土である。1は肥前系染付碗の体部、2は瀬戸鉄丸碗である。時期 堆積状況、及び出土遺物から開削は中世以降と想定される。

SD03 (第26・31図、PL. 5・8)

位置 調査区南部 (X = 400 ~ 404, Y = 399 ~ 405) 重複 SD04より後出する。 走行方位 N - 90° - E。
規模 検出長 [5.65] m、上幅 3.68 ~ 4.05 m、下幅 1.05 ~ 1.136 m、深さ 0.67 m、底面の標高は西側で 89.62m、東側で 89.55mを測る。 **形状等** 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、東側が低い。底面上に湛水の痕跡としてシルト質土、川原石の堆積を確認している。 **出土遺物** 接合作業後の破片数は中世磁器 1点、近世在地系軟質土器 1点である。図示し得た実測個体資料は第31図 SD03 - 1で覆土からの出土した龍泉窯系青磁内底花文碗の底部である。 **時期** 堆積状況、及び出土遺物から開鑿は中世以降と想定される。

SD04 (第26図、PL. 5)

位置 調査区南部 (X = 397 ~ 400, Y = 403 ~ 405) 重複 SD03・05より後出する。 走行方位 N - 21° - W。
規模 検出長 [4.20] m、上幅 0.50 ~ 0.72 m、下幅 0.25 ~ 0.3 m、深さ 0.19 m、底面の標高は北側で 89.90m、南側で 90.02mを測る。 **形状等** 南北方向に走行し、北側は調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、北側が低い。湛水の痕跡は確認できない。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 遺構の重複関係から開鑿は中世以降と想定される。

SD05 (第26図、PL. 5)

位置 調査区南部 (X = 397 ~ 398, Y = 399 ~ 404) 重複 SD04に先行する。 走行方位 N - 98° - E。 **規模** 検出長 [5.85] m、上幅 0.44 ~ 0.68 m、下幅 0.11 ~ 0.40 m、深さ 0.10 ~ 0.20 m、底面の標高は 90.05m前後を測る。 **形状等** 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、中央部がやや窪む。湛水の痕跡は確認できない。 **出土遺物** 出土していない。 **時期** 遺構の重複関係から開鑿は中世以降と想定される。

SD06 (第27・31図、PL. 5・8)

位置 調査区北部西側 (X = 400 ~ 404, Y = 399 ~ 405) / 東側 (X = 444 ~ 449, Y = 375 ~ 381) 重複 PT174に先行し、SI03、SK31・32より後出する。 走行方位 西側 N - 98° - E / 東側 N - 64° - E。 **規模** 西側検出長 [5.55] m、上幅 2.78 ~ 3.18 m、下幅 0.50 ~ 0.75 m、深さは北側が 0.38 m、南側が 0.60 m、底面標高は西側で 90.86 m、東側で 90.85 mを測る。 / 東側検出長 [6.00] m、上幅 2.72 ~ 2.92 m、下幅 0.57 ~ 0.75 m、深さは北側が 0.21 m、南側が 0.34 m、底面標高は西側で 90.79 m、東側で 90.78 mを測る。 **形状等** 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、北側が 0.20 m程高い段を呈す。湛水の痕跡は確認できない。 **出土遺物** 接合作業後の破片数は縄文土器 9点、弥生土器 3点、土師器 42点である。図示し得た実測個体資料は第31図 SD06 - 1で覆土からの出土した土師器高坏の脚部である。 **時期** 遺構の重複関係、及び出土遺物から7世紀以降と想定される。

SD07 (第27・31図、PL. 5・8)

位置 調査区北部西側 (X = 453 ~ 455, Y = 402 ~ 407) 東側 (X = 451 ~ 453, Y = 375 ~ 381) 重複 SI07・08、SK25・26・32、SD11・12より後出する。 走行方位 西側 N - 96° - E 東側 N - 88° - E。 **規模** 西側検出長 [5.50] m、上幅 2.10 ~ 2.17 m、下幅 0.27 ~ 0.37 m、深さは 0.76 m、底面標高は西側で 90.71 m、東側で 90.68 mを測る。 東側検出長 [5.60] m、上幅 1.50 ~ 2.05 m、下幅 0.20 ~ 0.40 m、深さは 0.55 m、底面標高は西側で 90.67 m、東側で 90.59 mを測る。 **形状等** 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、北側が 0.20 m程高い段を呈す。湛水の痕跡は確認できない。 **出土遺物** 接合作業後の破片数は縄文土器 3点、弥生土器 1点、土師器 15点である。図示し得た実測個体資料は第31図 SD07 - 1で覆土からの出土した土師器鉢である。 **時期** 遺構の重複関係、及び出土遺物から7世紀以降と想定される。

SD08 (第27・32図、PL. 5・8)

位置 調査区北部東側 (X = 447 ~ 451, Y = 375 ~ 381) 重複 SK32・33、SD11、PT181・184より後出する。 走行方位 N - 63° - E。 **規模** 検出長 [6.25] m、上幅 1.15 ~ 1.50 m、下幅 0.82 ~ 1.25 m、深さは 0.10 m、底

面標高は西側で91.12 m、東側で90.95 mを測る。形状等 南西～北東方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、北東側が低い。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器3点、弥生土器1点、土師器37点、須恵器1点、中近世陶磁器1点である。図示し得た実測個体資料は第32図SD08-1～3で1・2覆土、3は底面からの出土である。1は須恵器高杯の底部、2は土師器器台の脚部、3はSK32南側の底面から出土した弥生土器甕である。時期 図示遺物は古墳時代のものであるが、他の出土遺物、及び遺構の重複関係から近世以降と考えられる。

SD09 (第27図, PL. 4)

位置 調査区中央部西側 (X = 443 ~ 447, Y = 401 ~ 403) 重複 SI03に先行する。走行方位 N - 38° - E。規模 検出長 [3.75] m、上幅 1.05 ~ 1.08 m、下幅 0.06 ~ 0.10 m、深さは0.74 m、底面標高は南西側で90.48 m、北東側で90.44 mを測る。形状等 南西～北東方向にやや弓なりに走行し、調査区外に続く。後述するSD13に繋がる可能性が高い。断面はV字を呈する。底面はほぼ平坦で、北東側が低い。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器2点、土師器3点である。図示し得た実測個体資料はない。時期 遺構の重複関係、及び出土遺物から古墳時代前期以降～6世紀以前と考えられる。

SD10 (第27図, PL. 5)

位置 調査区北部東端 (X = 454 ~ 458, Y = 376 ~ 377) 重複 SI07・08、SD12より後出する。走行方位 N - 6° - E。規模 長さ3.45 m、上幅 0.25 ~ 0.26 m、下幅 0.08 ~ 0.18 m、深さは0.06 m、底面標高は南側で91.07 m、北側で91.03 mを測る。形状等 南北方向に走行する。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、北側が低い。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器4点である。図示し得た実測個体資料はない。時期 遺構の重複関係から6世紀以降と考えられる。

SD11 (第27図, PL. 5)

位置 調査区北部東側 (X = 449 ~ 452, Y = 380 ~ 381) 重複 SD07・08、PT185に先行する。走行方位 N - 8° - W。規模 検出長 [3.11] m、上幅 0.73 ~ 0.92 m、下幅 0.28 ~ 0.50 m、深さは0.67 m、底面標高は北側で90.74 m、南側で90.57 mを測る。形状等 南北方向に走行する。断面は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦で、南側が低い。出土遺物 接合作業後の破片数は弥生土器1点、土師器22点である。図示し得た実測個体資料はない。時期 出土遺物、及び遺構の重複関係から古墳時代前期以降と考えられる。

SD12 (第27図, PL. 5)

位置 調査区北部東端 (X = 452 ~ 458, Y = 376 ~ 377) 重複 SI08、SD07・10に先行する。走行方位 N - 5° - W。規模 検出長 [5.90] m、上幅 [0.93] m、下幅 [0.25] m、深さは0.77 m、底面標高は南側で90.58 m、北側で90.36 mを測る。形状等 南北方向に走行する。断面は逆台形を呈するものか。底面はほぼ平坦で、北側が低い。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器が5点、弥生土器3点、土師器40点である。図示し得た実測個体資料はない。時期 出土遺物、及び遺構の重複関係から古墳時代前期以降と考えられる。

SD13 (第28・32図, PL. 4・8)

位置 調査区北東部 (X = 460 ~ 462, Y = 376 ~ 388) 重複 SI05・06に先行し、SI15より後出する。走行方位 N - 80° - E。規模 検出長 [11.90] m、上幅 1.30 ~ 1.63 m、下幅 0.06 ~ 0.13 m、深さは0.94 m、底面標高は西側で90.42 m、東側で90.10 mを測る。形状等 東南方向にやや弓なりに走行し、調査区外に続く。前述のSD09に繋がる可能性が高い。断面はV字を呈する。底面はほぼ平坦で、東側が低い。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器12点、土師器50点である。図示し得た実測個体資料は第32図SD13-1・2で覆土からの出土である。1は土師器蓋、2は土師器甕である。時期 出土遺物、及び遺構の重複関係から古墳時代前期以降～6世紀以前と考えられる。

SD14 (第28図, PL. 5)

位置 調査区北端部中央 (X = 462 ~ 465, Y = 384 ~ 385) 重複 なし。走行方位 N - 3° - E。規模 検

出長 [3.18] m、上幅 0.37～0.47 m、下幅 0.17～0.29 m、深さは 0.17 m、底面標高は北側で 91.03 m、南側で 90.98 m を測る。形状等 南北方向に走行し、北部は調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で、南側が低い。出土遺物 出土していない。時期 不詳。

(5) 性格不明遺構 (第 28・32 図、PL. 5・8)

竪穴状遺構と称すべきかもしれないが、本報では性格不明遺構の呼称を使用している。

SX01 (第 28 図、PL. 5)

位置 調査区中央部京側 (X = 440～442, Y = 377～379) 重複 SD01 に先行する。形状・規模 平面は方形を呈するものであろうか。東西 [2.47] m × 南北 [2.42] m、壁現高 0.40 m を測る。底面は平坦で、北側に張り出し状の段を有する。南部は SD01 により失い、西部は調査区外となる。出土遺物 接合作業後の破片数は弥生土器 3 点、土師器 27 点、在地系軟質土器 2 点である。図示し得た実測個体資料はない。時期 出土遺物より中世以降と考えられる。

SX02 (第 28 図、PL. 5)

位置 調査区北東隅 (X = 465, Y = 378) 重複 なし。形状・規模 平面は方形を呈するものであろうか。東西 [1.83] m × 南北 [0.96] m、壁現高 0.27 m を測る。底面はほぼ平坦である。南壁の部分的な検出にとどまり、大半は調査区外となる。出土遺物 なし。時期 不詳。

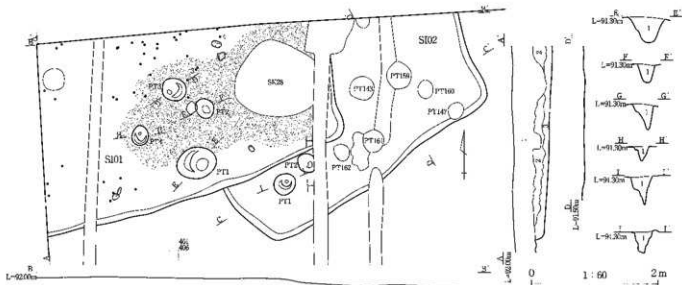
SX03 (第 28・32 図、PL. 5・8)

位置 調査区北端部中央 (X = 460～465, Y = 385～389) 重複 SI04・05・06、SD13 に先行する。形状・規模 平面は不整形を呈する。東西 4.00 m × 南北 [6.02] m、壁現高 0.18 m を測る。底面は北側がやや低い。西部は SI04、南東部は SI06 により失い、北部は調査区外となる。ほぼ中央部に 7 口の小穴が北東～南西方向に並ぶ。平面は楕円形～楕円形状を呈し、規模は東西 0.25～0.75 m、南北 0.22～0.60 m、深さ 0.05～0.35 m、芯～芯距離は南から 0.40m、0.60m、0.50m、0.80m、0.60m、1.20m を測る。南北の主軸方位は N - 25° - E である。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器土師器 68 点、弥生土器 2 点、土師器 226 点である。図示し得た実測個体資料は第 32 図 SX03 - 1～3 で覆土からの出土である。1 は土師器 S 字甕、2 は土師器壺の口縁部、3・4 は土師器埴である。

時期 出土遺物より古墳時代前期と考えられる。

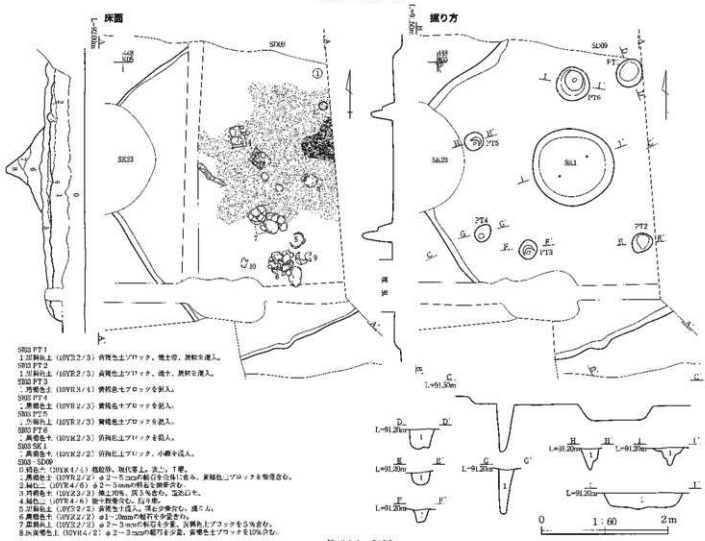
(6) 遺構外出土遺物 (第 32 図、PL. 8)

表土掘削、および遺物包含層から出土した遺物をここに集めた。接合作業後の破片数は縄文土器 128 点、石斧 1 点、弥生土器 14 点、土師器 415 点、須恵器 24 点、寛永通宝 1 点である。ここでは第 32 図に示した実測個体資料について略記し、詳細は出土遺物観察表 (第 3 表) を参照されたい。1・2 は縄文土器の深鉢、3 は縄文土器の短頸壺、4 は短筒形の打製石斧である。5～8 は竜見町式の弥生土器で甕類の頸～胴部片である。5 は SK23、6～8 は SD12 の混入遺物であり、都合によりここに示した。9 は土師器壺の口縁部、10 は須恵器短頸壺の頸～胴部、11 は寛永通宝である。

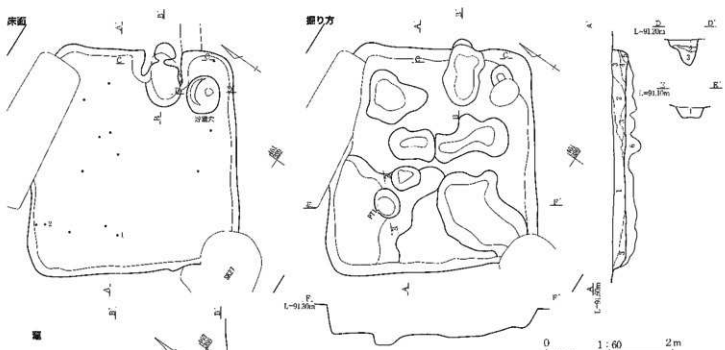


- 10M40. (10VR3/3) 白砂粘土、暗色砂土、土層が分ち。
 11M40. (10VR2/3) 黄褐色土ブロックを少量含む。
 SI01 PT1
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土、φ2mmの礫石、暗色砂土を少量含む。
 SI01 PT2
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT3
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT4
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT5
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT6
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT7
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT8
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT9
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT10
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT11
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT12
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT13
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT14
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT15
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。
 SI01 PT16
 1. 黄褐色土 (10VR2/2) 黄褐色土を少量含む。

第5図 SI01・02



第6図 SI03



SP4

1. 腸管 (OVY 2/3) φ 2-5mm の短柱、背内上アブロンク、形を多少歪む。
2. 腸管 (OVY 2/3) φ 2-5mm の短柱、砂粒を少量、背管内アブロンクを多少含む。
3. 腸管 (OVY 2/3) φ 2-5mm の短柱、腸管に砂粒、腸管内アブロンクを少量含む。
4. 腸管 (OVY 2/3) φ 2-5mm の短柱、腸管内アブロンクを少量含む。
5. 腸管 (OVY 2/2)
6. 腸管 (OVY 2/2) 腸管にアブロンクを少量含む、腸管に砂粒。

SP5

1. 腸管 (OVY 2/3) φ 2-5mm の短柱、背内上アブロンクを少量含む。
2. 腸管 (OVY 2/2) 腸管に φ 2-5mm の短柱、背管内アブロンクを少量含む、腸管に砂粒。
3. 腸管 (OVY 2/3) φ 2-5mm の短柱、腸管に砂粒、腸管内アブロンクを少量含む。腸管に砂粒。
4. 腸管 (OVY 4) 腸管を多少歪む。腸管に砂粒、腸管内アブロンクを少量含む。
5. 腸管 (OVY 2/3) φ 2-5mm の短柱、腸管に砂粒。
6. 腸管 (OVY 2/3) φ 2-5mm の短柱、腸管に砂粒。
7. 腸管 (OVY 2/3) φ 2-5mm の短柱、腸管に砂粒。
8. 腸管 (OVY 2/2) 腸管に砂粒。
9. 腸管 (OVY 2/2) 腸管に砂粒。
10. 腸管 (OVY 2/2) 腸管に砂粒。
11. 腸管 (OVY 2/2) 腸管に砂粒。

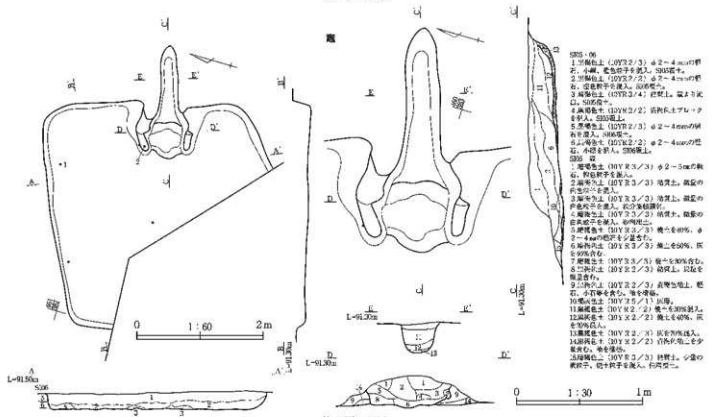
SP6

1. 腸管 (OVY 2/2) φ 2-5mm の短柱、腸管に砂粒。
2. 腸管 (OVY 2/3) 腸管に砂粒。
3. 腸管 (OVY 2/3) 腸管に砂粒。

SP7

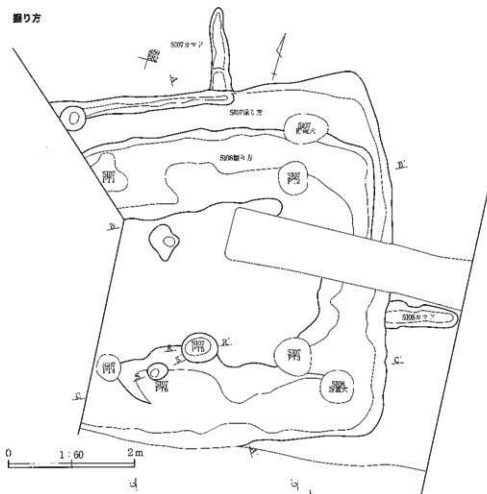
1. 腸管 (OVY 2/3) 腸管にアブロンクを少量含む。

第7図 SD4



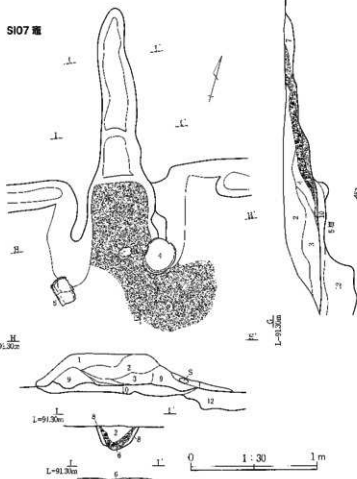
第8図 SD5

掘り方

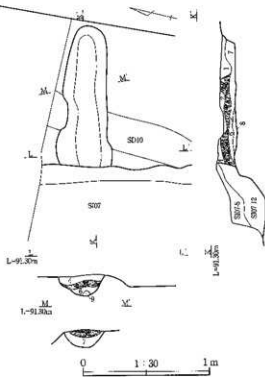


- SI07 層
1. 灰褐色土 (SI07R3/3) φ3-4cmの礫石、灰土粒子、灰粒(中粒)を含む。
 2. 灰褐色土 (SI07R3/3) φ2-10cmの礫石、褐色粘土を含む。
 3. 灰褐色土 (SI07R3/3) φ2-4cmの礫石、灰褐色粘土と赤土、粘土を5%含む。
 4. 灰褐色土 (SI07R3/4) 灰褐色粘質土を少量、灰土プロットを30%含む。
 5. 赤褐色土 (57R4/6) 礫石を10%、灰を10%、河原土を少量含む。
 6. 赤褐色土 (SI07R5/1) 灰を80%、河原土を少量含む。
 7. 灰褐色土 (SI07R2/3) φ2-4cmの礫石、灰土を4%含む。
 8. 灰褐色土 (SI07R2/3) φ2-4cmの礫石、河原土の塊状土を含む。
 9. 赤褐色土 (SI07R4/2) 粘質土、灰土粒、赤粘土、灰褐色土と赤土、粘土を含む。
 10. 灰褐色土 (SI07R2/2) 粘質土、灰土粒、赤粘土、赤褐色土、赤土を含む。
 11. 赤褐色土 (SI07R2/2) 粘質土、河原土プロットを少量含む。
 12. 赤褐色土 (SI07R2/2) 粘質土、河原土プロットを約5%含む、灰土粒あり。
- SI08 層
1. 河原土上 (SI07R2/3) φ2-4cmの礫石、灰土プロットを5%含む。
 2. 河原土上 (SI07R2/3) φ2-4cmの礫石、灰土プロット、赤土を含む。
 3. 河原土上 (SI07R2/8) 灰土プロット。
 4. 河原土上 (SI07R2/3) 灰土プロットを30%含む。
 5. 赤褐色土 (SI07R4/6) 礫石を含む。
 6. 灰褐色土上 (SI07R4/2) 礫石、灰土を5%含む。
 7. 河原土上 (SI07R3/3) 赤土、赤粘土、河原土を含む。
 8. 河原土上 (SI07R2/2) 赤土、灰土粒子、河原土を含む。
 9. 赤褐色土 (SI07R4/3) 。

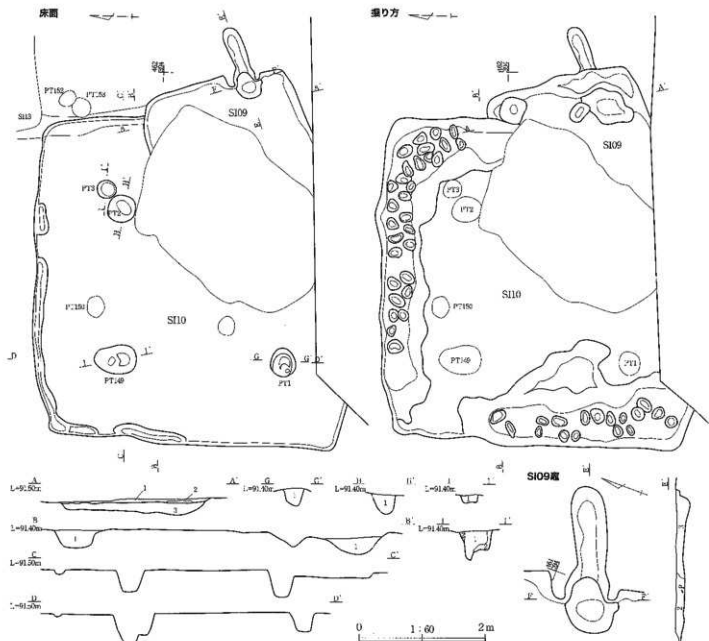
SI07 層



SI08 層



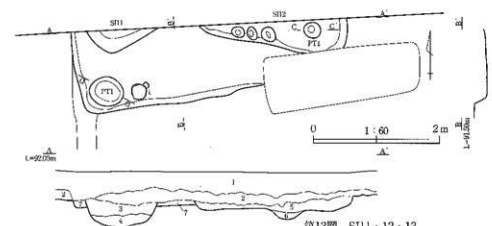
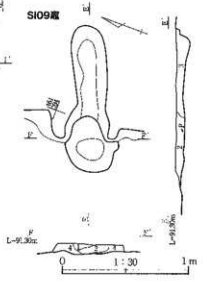
第11図 SI07・08 (2)



SI09
 1. 土間色土 (10YR2/2) φ 2-5cmの礫石、黄褐色土ブロック、黒褐色土を混入。
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 地土ブロックを30%混入、厚から厚。
 3. 黄褐色土 (10YR2/2) φ 2-5cmの礫石、黄褐色土ブロックを含む、50%混入。
 SI10
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを20%混入、φ 10cmの黒褐色土を含む、厚
 3cm。
 SI09 堀
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) φ 2-4cmの礫石、黒褐色土を含む。
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 地土ブロックを混入、厚から厚、黒褐色土を少量含む。
 3. 黄褐色土 (10YR2/2) φ 2-4cmの礫石、黄褐色土、小砂を含む。

4. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、黄褐色土を混入、厚から厚。
 SI10 PT1
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) φ 2-4cmの礫石、黄褐色土ブロックを少量含む。
 SI10 PT2
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) φ 2-4cmの礫石、黄褐色土ブロックを少量含む。
 SI10 PT3
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを少量含む。
 PT10
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、少量を含む。
 2. 土間色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを少量含む。

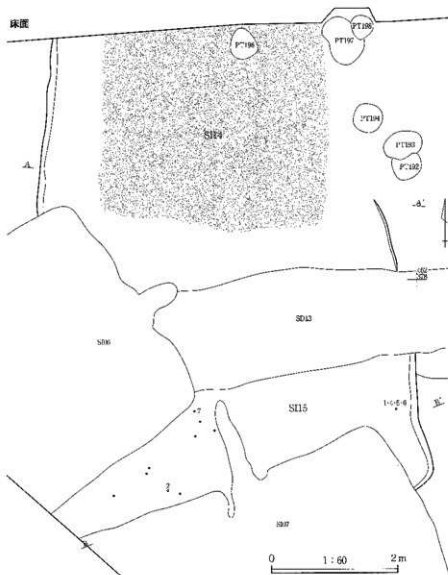
第12図 SI09・10



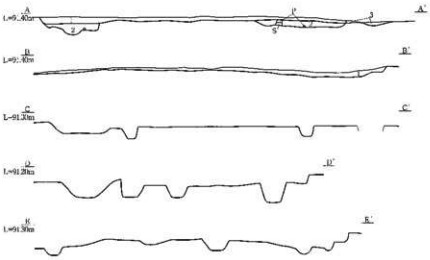
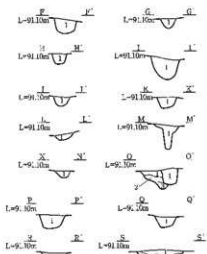
SI11・12・13
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、厚から厚。
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、厚から厚。
 3. 黒褐色土 (10YR2/2) φ 2-10cmの礫石を少量含む。
 4. 黒褐色土 (10YR2/2) φ 2-10cmの礫石を少量含む。
 5. 黒褐色土 (10YR2/2) φ 2-10cmの礫石を少量含む。
 6. 土間色土 (10YR2/2) φ 2-10cmの礫石を少量含む。
 7. 黒褐色土 (10YR2/2) φ 2-10cmの礫石を少量含む。
 8. 土間色土 (10YR2/2) φ 2-10cmの礫石を少量含む。
 SI11
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 地土ブロックを少量含む。
 SI11 PT1
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、厚から厚。

第13図 SI11・12・13

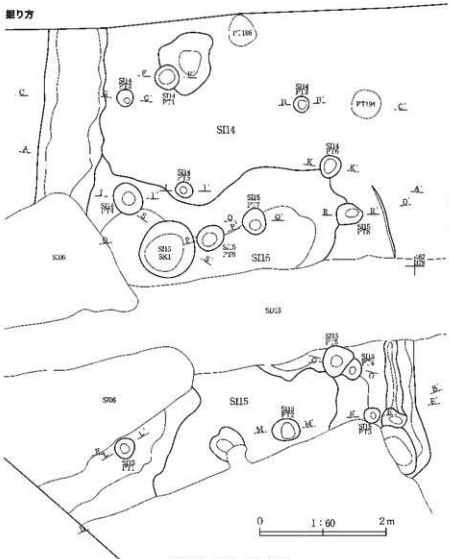
床面



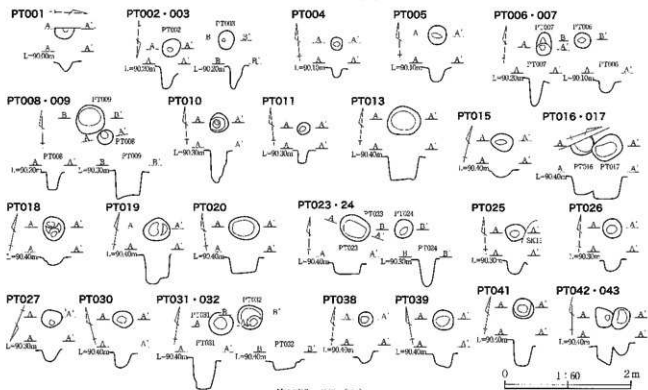
- SI14-15
 1. 二層土 (10YR2/2) φ2-4cmの硬石を多数含む。SI4。
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) φ2-4cmの硬石を少量。黄褐色土ブロックを多数含む。SI4を含む。SI4を含む。
 3. 黒褐色土 (10YR2/2) φ2-4cmの硬石。黄褐色土ブロックを少量含む。SI5。
 SI5
 1. 二層土 (10YR2/2) φ1-3cmの硬石。黄褐色土ブロックを少量含む。黄褐色土。
 SI4 PT 1
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) φ2cmの硬石を少量。黄褐色土ブロックを少量含む。SI4 PT 2
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを多数含む。SI4 PT 3
 1. 二層土 (10YR2/2) φ2cmの硬石を少量。黄褐色土ブロックを少量含む。SI4 PT 4
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) φ2cmの硬石を少量。黄褐色土ブロックを少量含む。SI4 PT 5
 1. 二層土 (10YR2/2) 黄褐色土。黄褐色土ブロックを少量含む。SI4 PT 6
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土。黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 PT 1
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 PT 2
 1. 二層土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 PT 3
 1. 二層土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 PT 4
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 PT 5
 1. 二層土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 PT 6
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土。黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 PT 7
 1. 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土。黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 PT 8
 1. 二層土 (10YR2/2) φ2-4cmの硬石を少量。黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 SI 1
 1. 二層土 (10YR2/2) φ2-4cmの硬石を少量。黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 SI 2
 1. 二層土 (10YR2/2) φ2-4cmの硬石を少量。黄褐色土ブロックを少量含む。SI5 SI 3



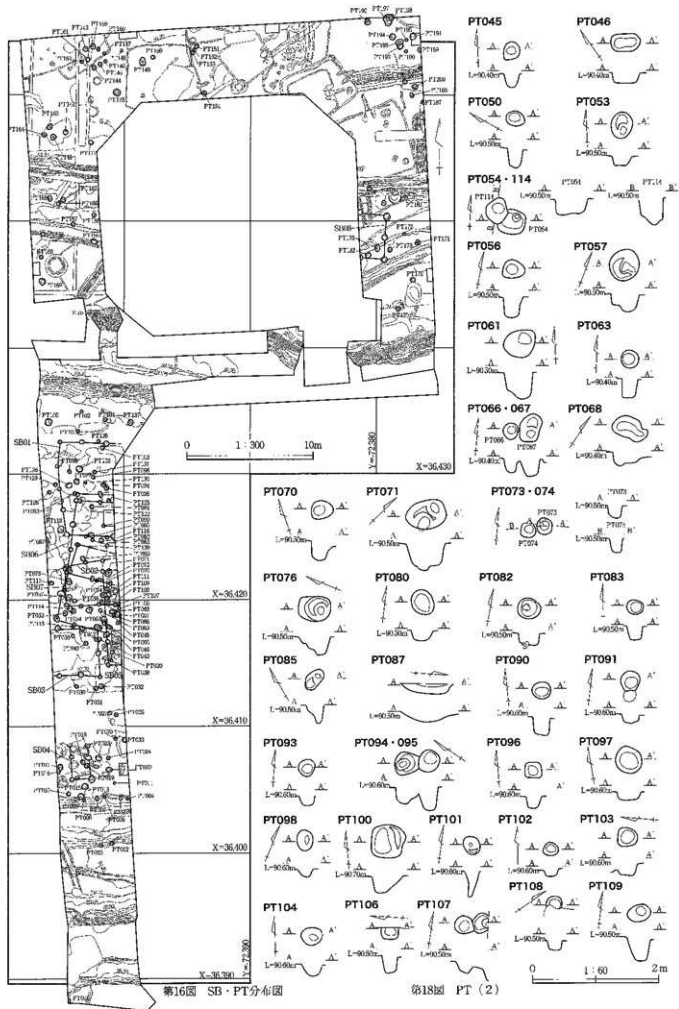
第14図 SI14・15 (1)



第15図 SI14・15 (2)

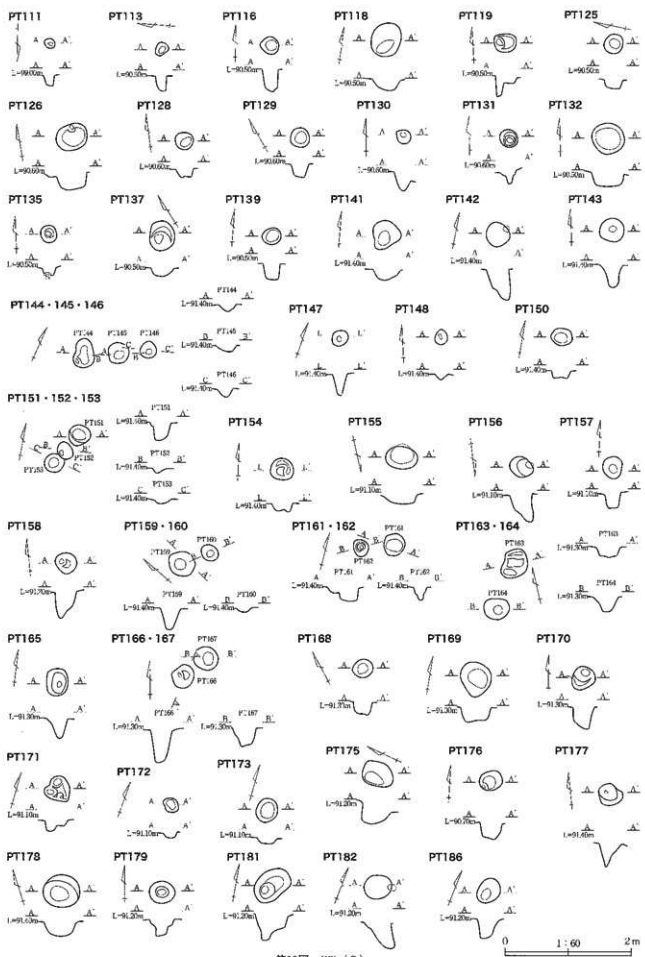


第17図 PT (1)

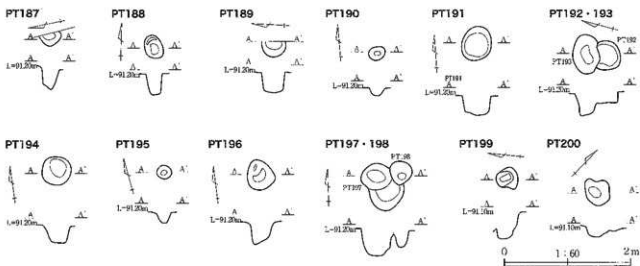


第16圖 SB·PT分布圖

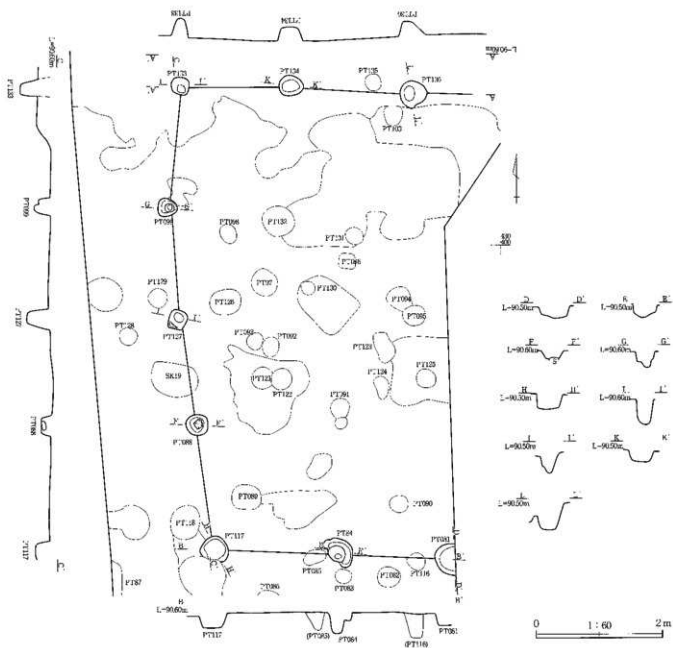
第18圖 PT (2)



第19圖 PT (3)

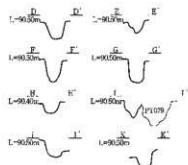
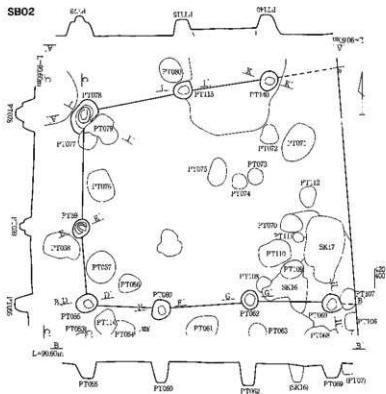


第20回 PT (4)

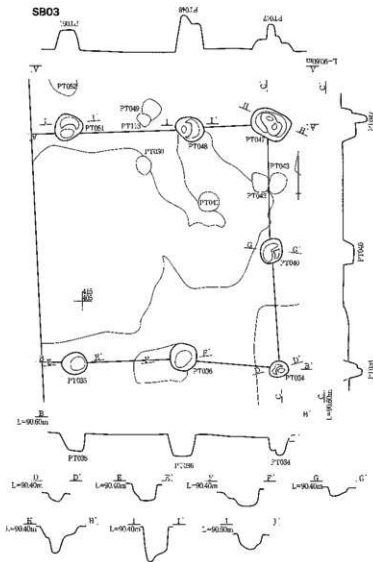


第21回 SB01

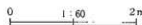
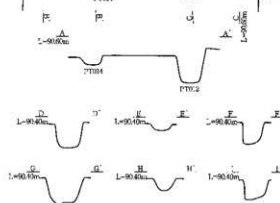
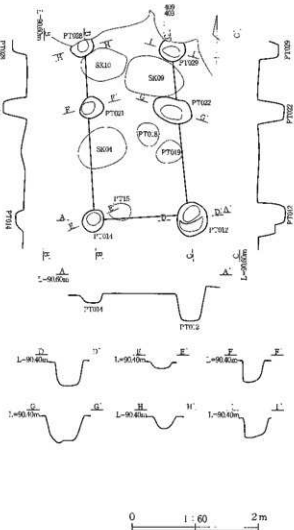
SB02



SB03

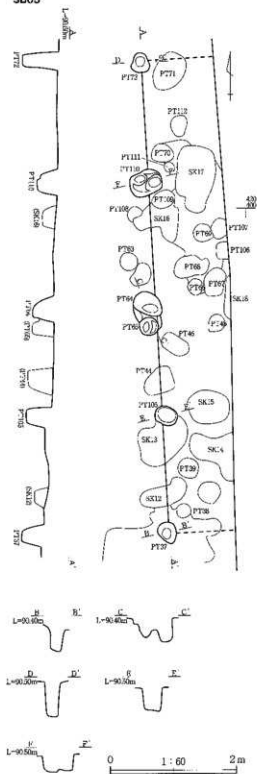


SB04

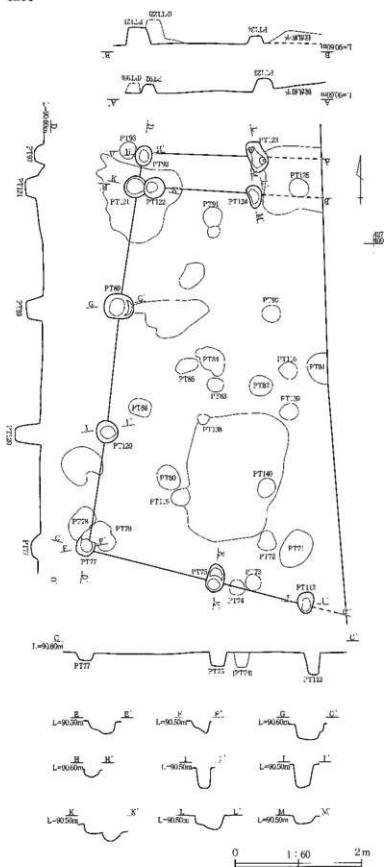


第22图 SB02·03·04

SB05

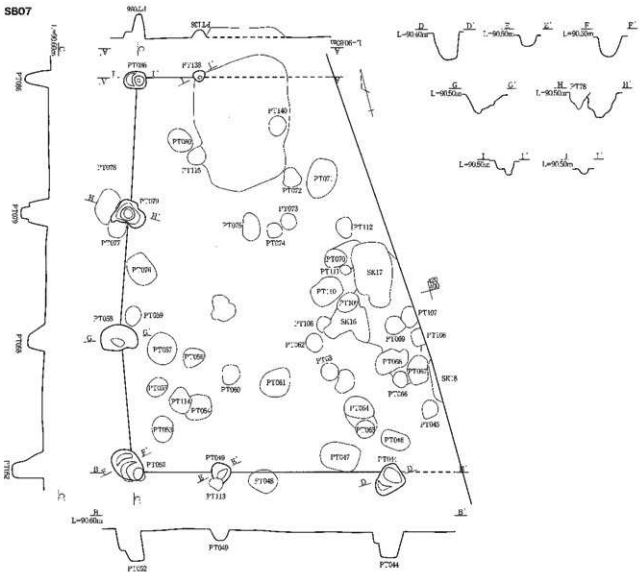


SB06

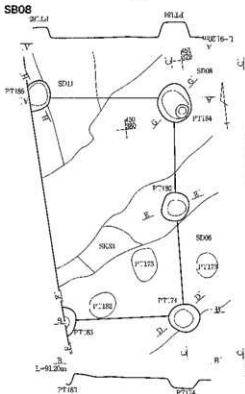


第23圖 SB05・06

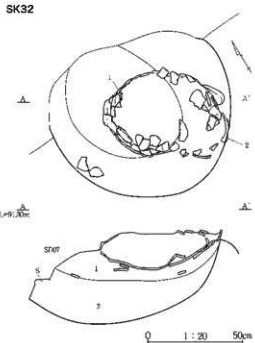
SB07



SB08

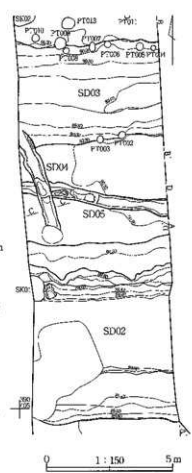
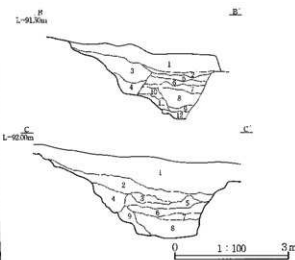
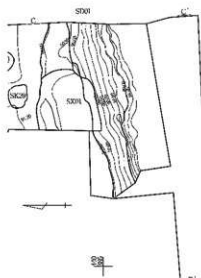


SK32

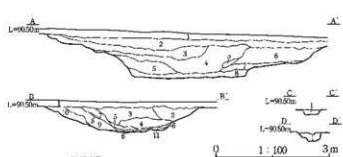
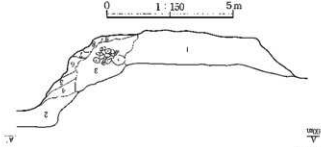
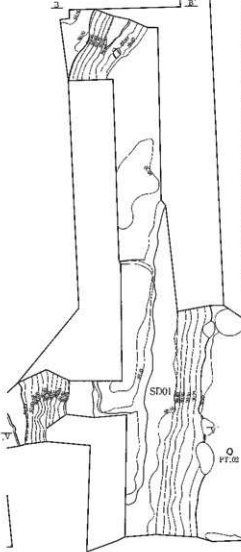


SK32
 1 盛土 (30x22.2) φ2.5cmの筒を少納め、
 敷き、むねの凹状で、土層基の上。
 2 土層 (30x25.4) φ2.5cmの筒を少納め。

第24図 SB07・08・SK32

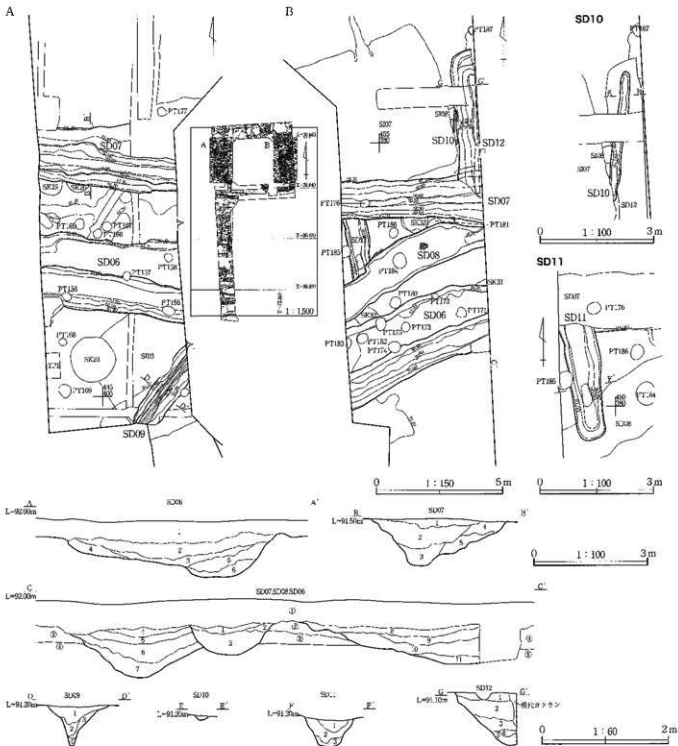


- SD01 A-A'**
- 1 黄褐色硬粘土 (10YR5/6-8/4) 断面の中心部、砂、泥、細砂を含む。粒状。
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。
 - 3 暗褐色 (10YR3/3) 15-30cm次の断面を多量に含む。
 - 4 暗褐色 (10YR3/3) 砂。2-3mmの細砂。砂河心を含む。黄褐色土を混入。層より厚。
 - 5 暗褐色 (10YR3/3) 砂。2-3mmの細砂。砂河心を含む。層より厚。
 - 6 暗褐色 (10YR3/4) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。層より厚。
 - 7 褐色 (10YR2/1) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。層より厚。
 - 8 灰土 (10YR7/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。層より厚。
 - 9 オリーブ褐色 (5YR5/2) 軟弱土。3-10cm次の断面を多量に含む。
- SD01 B-B'**
- 1 灰褐色 (10YR3/3) 砂。砂を含む。粒状。
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。
 - 3 黄褐色 (10YR2/3) 砂。砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 4 暗褐色 (5YR5/2) シルト質。少量の砂を含む。層より厚。
 - 5 暗褐色 (10YR3/3) 砂。砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 6 黄褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 7 黄褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 8 黄褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 9 シルト質。砂河心を含む。
 - 10 暗褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 11 黄褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 12 黄褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
- SD01 C-C'**
- 1 暗褐色 (10YR3/3) A-Aを参照せよ。砂。
 - 2 砂河心 (10YR3/4) 砂。砂。砂河心を含む。
 - 3 暗褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 4 暗褐色 (10YR3/2) シルト質。少量の砂を含む。
 - 5 砂河心 (10YR3/3) シルト質。少量の砂を含む。
 - 6 黄褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 7 暗褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 8 暗褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 9 暗褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 10 暗褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 11 暗褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 12 暗褐色 (10YR3/2) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。



- SD02 地層**
- 1 暗褐色 (10YR2/2) 黄土。
 - 2 暗褐色 (10YR3/4) 灰土。砂。砂河心を含む。
 - 3 暗褐色 (10YR3/4) 灰土。砂。砂河心を含む。
 - 4 シルト質。砂河心を含む。
 - 5 暗褐色 (10YR3/2) シルト質。
 - 6 黄褐色 (10YR4/4) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 7 黄褐色 (10YR4/4) 軟弱土。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 8 暗褐色 (10YR3/1) シルト質。砂河心を含む。砂河心を含む。
- SD02**
- 1 暗褐色 (10YR3/3) 黄土。
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 3 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 4 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 5 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 6 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 7 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 8 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 9 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 10 暗褐色 (10YR3/3) 黄褐色硬砂。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 11 暗褐色 (10YR3/2) シルト質。砂河心を含む。砂河心を含む。
 - 12 暗褐色 (10YR3/2) シルト質。砂河心を含む。砂河心を含む。
- SD02**
- 1 オリーブ褐色 (5YR5/2) 軟弱土。3-10cm次の断面を含む。SD01に相当。

第26図 SD01-05



SD06

1. 褐色土 (10YR4/4) 瓦礫跡、灰、瓦上。
2. 赤い黄褐色土 (10YR4/3) 5-10cmの川原石を少量含む。
3. 黄褐色土 (10YR3/3) 瓦礫土にアロクサ、小骨を少量含む。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 瓦礫土を少量含む。
5. 赤褐色土 (10YR2/2) 黄褐色土にアロクサ、小骨、赤朽を少量含む。
6. 黄褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土にアロクサ30%含む。

SD07

1. 褐色土 (10YR4/4) 瓦礫跡、灰。
2. 赤い黄褐色土 (10YR4/3) 少量の燻を混入。
3. 赤い黄褐色土 (10YR4/3) 瓦礫土にアロクサを含む。
4. 黄褐色土 (10YR4/3) 少量の燻を混入。
5. 赤褐色土 (10YR4/3) 黄褐色土にアロクサを含む。

SD10

1. 黒褐色土 (10YR2/2) ϕ 1-10mmの軽石を少量含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) ϕ 2-3mmの軽石を5%含む。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) ϕ 2-3mmの軽石を少量、黄褐色土にアロクサを5%含む。
4. 赤褐色土 (10YR4/3) ϕ 2-3mmの軽石を少量、黄褐色土にアロクサを10%含む。

SD11

1. 黄褐色土 (10YR2/2) ϕ 2-4mmの軽石、赤褐色土を混入、SD06より黒い。

SD12

1. 赤褐色土 (10YR2/2) ϕ 2mmの軽石を少量含む。
2. 黄褐色土 (10YR2/2) 燻跡、燻跡に少量混入。
3. 黄褐色土 (10YR2/2) 燻跡、アロクサを少量混入。

SD13

1. 赤褐色土 (10YR2/2) ϕ 1-10mmの軽石を少量含む、褐色土に燻を少量含む。
2. 黄褐色土 (10YR2/2) ϕ 1-10mmの軽石を少量含む、黄褐色土にアロクサを少量含む。
3. 赤褐色土 (10YR2/2) 燻跡、燻跡に少量混入、燻跡に少量混入。
4. 黄褐色土 (10YR2/2) 燻跡、燻跡に少量混入、燻跡に少量混入。
5. 赤い黄褐色土 (10YR4/3) 燻跡土、黄褐色土にアロクサ、小骨を含む。

6. 黄褐色土 (10YR3/3) 燻跡を少量含む、SD07。

7. 赤褐色土 (10YR2/2) 燻跡土にアロクサを少量含む、SD07。

8. 赤い黄褐色土 (10YR4/3) ϕ 2-3mmの軽石 (Aa) 70%混入、燻跡を少量含む、SD06。

9. 黄褐色土 (10YR3/3) 燻跡を少量含む、SD06。

10. 黄褐色土 (10YR4/3) 燻跡を少量含む、SD06。

11. 黄褐色土 (10YR2/2) 燻跡土にアロクサ、燻を混入、SD06。

SD09

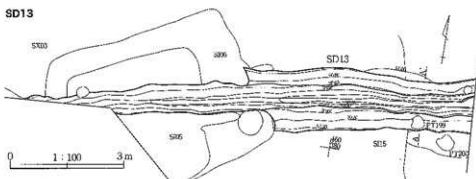
1. 褐色土 (10YR4/4) 瓦礫跡、灰。
2. 赤い黄褐色土 (10YR4/3) 少量の燻を混入。
3. 赤い黄褐色土 (10YR4/3) 瓦礫土にアロクサを含む。
4. 黄褐色土 (10YR4/3) 少量の燻を混入。
5. 赤褐色土 (10YR4/3) 黄褐色土にアロクサを含む。

SD08

1. 褐色土 (10YR4/4) 瓦礫跡、灰。
2. 赤い黄褐色土 (10YR4/3) 少量の燻を混入。
3. 赤い黄褐色土 (10YR4/3) 瓦礫土にアロクサを含む。
4. 黄褐色土 (10YR4/3) 少量の燻を混入。
5. 赤褐色土 (10YR4/3) 黄褐色土にアロクサを含む。

第27図 SD06~12

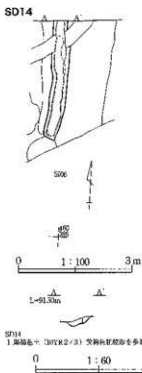
SD13



SX05

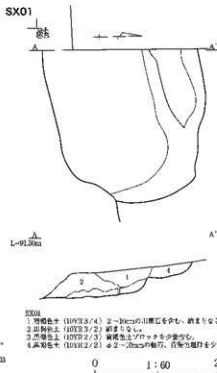
1. 黒褐色土 (10YR2/2) ① 1-5mmの粒石を散見する。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) ② 1-15mmの粒石を少量含む。
3. 黒褐色土 (10YR2/2) ③ 1-3mmの粒石を少量含む。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) ④ 1-5mmの粒石を少量含む。黄褐色土ブロックを10%含む。
5. 黒褐色土 (10YR2/2) ⑤ 1-3mmの粒石を少量、黄褐色土ブロックを30%含む。

SD14



- SX14
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 突刺状粒石を少量含む。

SX01



SX02

1. 暗褐色土 (10YR3/4) ② 10cmの片断石を含む。粘まりなし。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘まりなし。
3. 赤褐色土 (10YR2/3) 粘着土ブロックを少量含む。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) ② 2-3mmの粒石、石灰化粒石を少量含む。

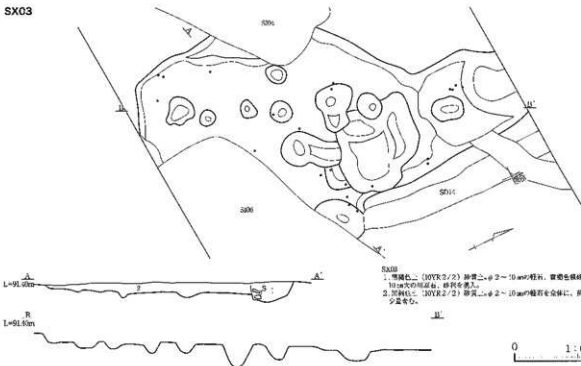
SX02



SX06

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘りなし。② 2mmの粒石を少量含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘りなし。③ 2mmの粒石を少量含む。
3. 赤褐色土 (10YR2/3) 粘りなし。④ 2mmの粒石を少量含む。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘りなし。⑤ 2mmの粒石を少量含む。

SX03

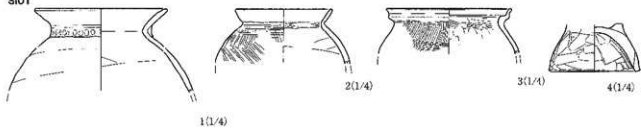


SX06

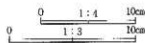
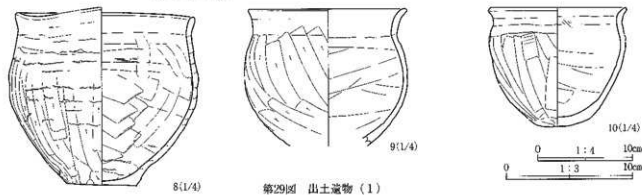
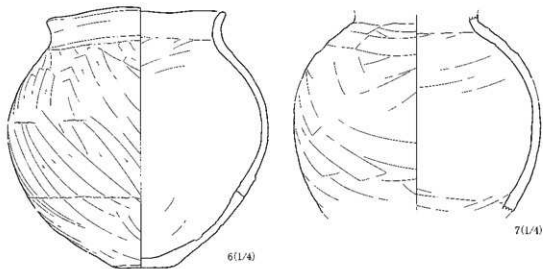
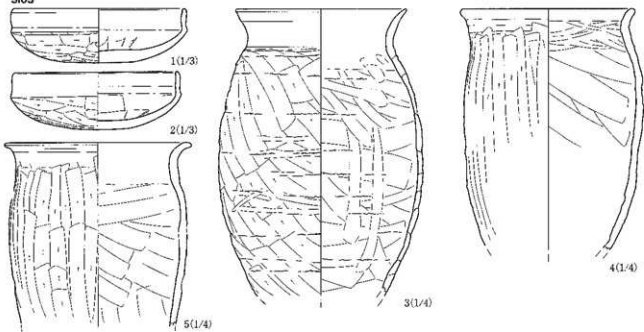
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘りなし。② 2-10mmの粒石、黄褐色土を少量含む。10cm次の断面を、砂利を混入。
2. 赤褐色土 (10YR2/2) 粘りなし。③ 2-10mmの粒石を全体に、黒褐色土ブロックを少量含む。

第28図 SD13・14、SX

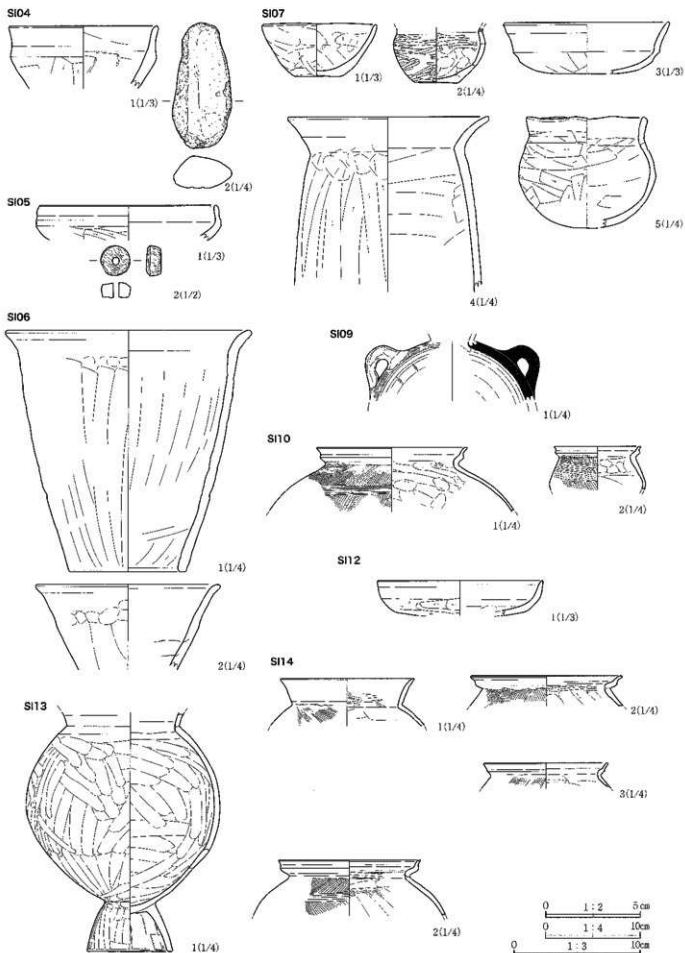
SI01



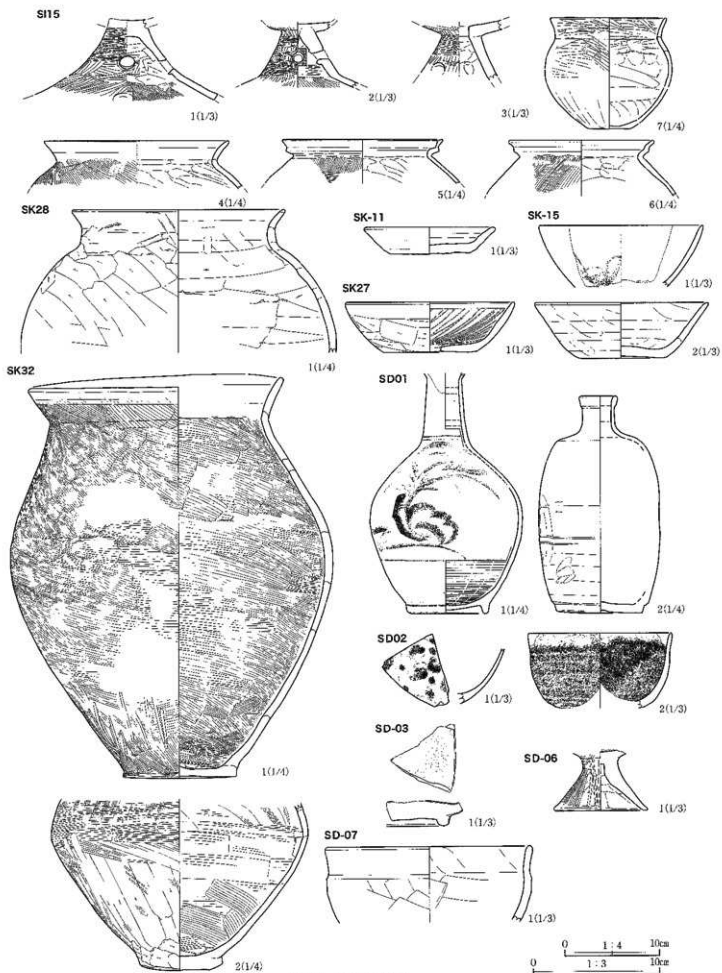
SI03



第29図 出土遺物(1)

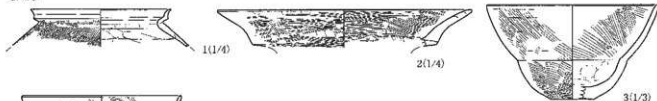


第30図 出土遺物(2)

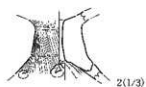


第31回 出土遺物(3)

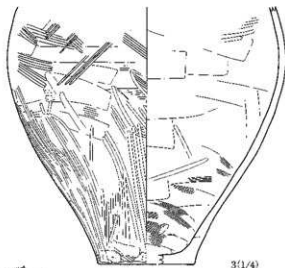
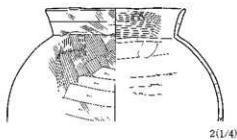
SX03



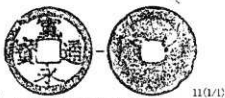
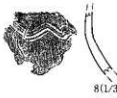
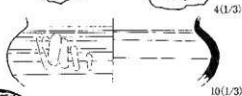
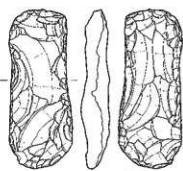
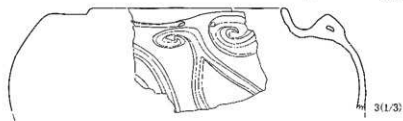
SD08



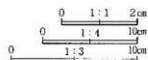
SD13



瀬川外



第32図 出土遺物 (4)



VI. 発掘調査の成果と課題

今回の高岡・塚村遺跡における調査では、道路幅 60m という狭い範囲に関わらず、古墳時代～中・近世に亘る遺構を確認し、縄文時代～近世の多種多様な遺物を検出することができた。各個別の詳細については前章に記したので、ここでは本調査で確認した主要な遺構・遺物を時期別に分けて概観・検討し、まとめたい(第 33・34 図)。

縄文時代 今回の調査では、縄文時代に該当する遺構は確認されていない。しかし、遺物は包含層や後世の遺構覆土から出土しており、近隣の微高地上に集落が存在している可能性は高いといえる。遺物としては土器 479 点、打製石斧 1 点、黒曜石剥片 1 点が出土している。土器は縄文時代中期後半(加曾利 E 3 式併行期)の深鉢が大半を占め、短頸壺 1 点、浅鉢 1 点を含み、その他に後期前半(堀之内式)の深鉢が 1 点出土している。

弥生時代 弥生時代の遺構も確認されていないが、甕・甕類の破片が 91 点出土している。多くは頸部に櫛指縹状文、肩部に櫛指波状文を有する弥生時代後期の樽式の特徴が観察され、中期後半の竜見町式と考えられる頸部や肩部の外面にヘラ描波線文やヘラ描山形文を施す甕の破片等も数点出土している。1991 年の高崎環状線における高岡・塚村遺跡の調査では弥生時代中期の断面 V 字形の溝、高岡東沖・村前遺跡では竪穴住居跡が、また、高岡村前遺跡では後期の竪穴住居跡が確認されており、本遺跡の北側微高地上に中期の、南側微高地上に後期の集落が存在する可能性が高いといえる。

古墳時代 本遺跡において遺構が確認できるのは古墳時代からである。古墳時代前期の遺構としては SI01・02・13・14・15、SK32、SD09・11・12・13 が挙げられる。竪穴住居跡は調査区北端部からの検出で、部分的な確認にとどまり、全体を把握できたものではなく不明点が多い。いずれも重複しており、濃密な分布が想定される。SD09・13 は未調査箇所を挟むが、規模・形状から同一の遺構の可能性が高く、環濠として機能したものと考えられる。古墳時代後期の SI03・05・06 に先行し、SI15 より後出であり、また、古墳時代中期以降の遺物を含まないことから、古墳時代前期の段階で集落の構造が大きく変更されたものと考えられる。尚、SK32 は単独の土器棺墓と考えているが、近接する南北方向の溝である SD11・12 との関係も考慮すべきかもしれず、棺に用いられた甕と弥生時代中期末～後期初頭にみられる無文の土器との関係についても、今後の検討課題とした。

集落はその後、古墳時代中期の空白期を挟み、後期に入って再び集落が形成されるようになる。古墳時代後期の遺構としては調査区北部から検出された SI03・04・05・06・07・08・09・10、SK23・28 が挙げられる。竪穴住居跡の規模は一辺 5.00m 前後のもの、3.00m 前後のものに大別でき、重複関係から前者のほうが先行することが確認されている。甕は基本的には東

壁に付設され、SI08 の建て替えである SI07 では、唯一、北壁からの検出である。

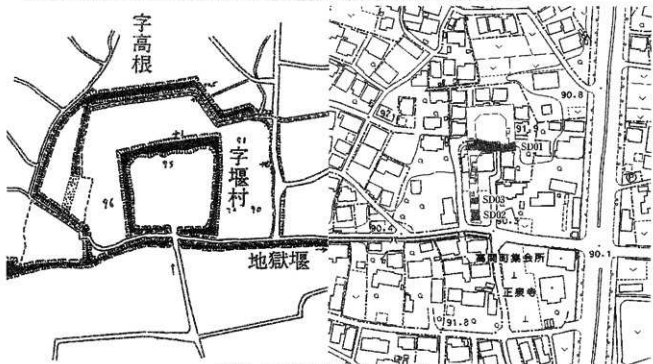
奈良・平安時代 奈良・平安時代になると遺構・遺物数は減少し、調査区北部から検出された SI12 と SK27 を挙げるとどまる。いずれも 8 世紀代の遺構と考えられるが、集落の中心から外れた区域となるようである。尚、7 世紀以降の圍籾とした SD06・07 はこの時期の遺構とみるべきかもしれないが、中世まで降



第 33 図 遺構分布図 (1 : 300)

る可能性も考慮したい。

中世以降 中世以降になると遺構数は増加し、調査区全体から検出されている。遺構としてはSD01・02・03と、ピット200口の大半はこの時期に含まれるものとみられる。SD01を境に調査区南部の遺構確認面は北部に比べ1.0m～1.5m程低く、当該期以前の遺構は確認されず、中世以降に大きく削平を受けた可能性が高いといえる。出土遺物もSD01以外からは中近世遺物の他は、土師器小片を11点確認したのみである。SD01は上幅7.0m、深さ2.3mを測る大規模な溝であり、その痕跡は調査着手の直前まで東西方向の窪みとして観察されていた。木趾から調査区南端部検出のSD02・03との間では、濃密に分布した140口のピットが検出され、7棟の掘立柱建物を抽出・復元した。重複関係からSB07→SB02→SB06の順に新しく、配置や主軸方位等からSB01・02・03・04が同時期に存在することが可能と考えられるが、推測の域を超えるものではない。SD01の北側ではピットの分布は薄く、復元したのはSB08一棟のみであるが、狭い調査範囲からの抽出であり不明点が多い。本調査地点は中世城館である高岡屋敷が想定されている。『新編高岡市史資料編3 中世1』によると「南面は地獄塚を利用し、本郭濠との間に濠ほどの空間があり、その中央に丁口が設けられていたようだ」とあり、方形の本郭を外郭が覆う構造である。第34図には高岡屋敷の縄張り図と、本調査における中世以降の代表的な遺構の配置図を示した。これらの全てが高岡屋敷に関わる遺構であるかは不明であり、また、出土遺物も非常に少なく、遺構の年代観についても明確にし得ないが、溝の開鑿は15世紀末まで遡る可能性が高いと考えている。本調査地点における谷筋の存在をIV。基本順序で想定したが、SD01・02・03は地形や傾斜に沿った走向を示す溝であり、古い段階の地獄塚の流路とも考えられ、その後、屋敷地に取り込まれたものと推測される。

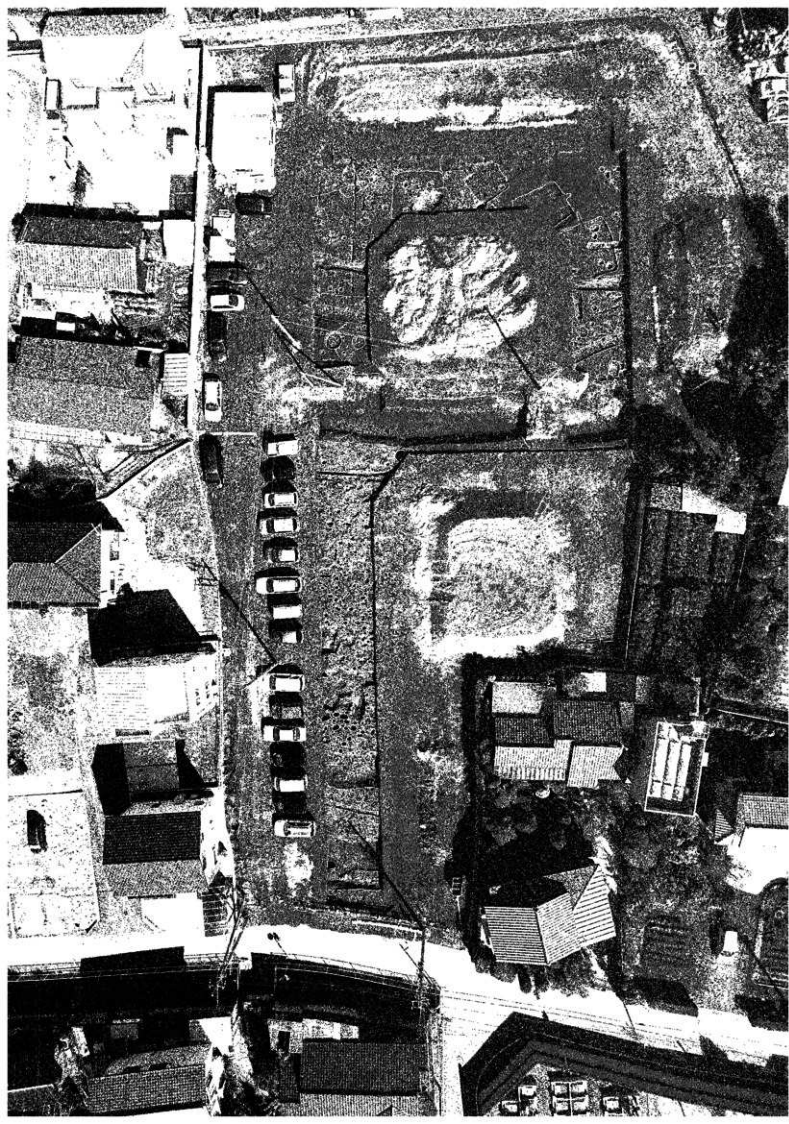


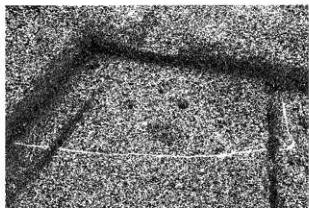
第34図 調査成果と高岡屋敷 (1:2,500)

引用・参考文献

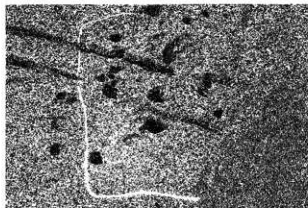
高岡屋敷発掘委員会 『高岡城の土城跡編』 1989
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編1』 1990
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編2』 1992
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編3 中世1』 1996
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編4 中世2』 1996
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編5 中世3』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編6』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編7』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編8』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編9』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編10』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編11』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編12』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編13』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編14』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編15』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編16』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編17』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編18』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編19』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編20』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編21』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編22』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編23』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編24』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編25』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編26』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編27』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編28』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編29』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編30』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編31』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編32』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編33』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編34』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編35』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編36』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編37』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編38』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編39』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編40』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編41』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編42』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編43』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編44』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編45』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編46』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編47』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編48』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編49』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編50』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編51』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編52』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編53』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編54』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編55』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編56』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編57』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編58』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編59』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編60』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編61』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編62』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編63』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編64』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編65』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編66』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編67』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編68』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編69』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編70』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編71』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編72』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編73』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編74』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編75』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編76』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編77』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編78』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編79』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編80』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編81』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編82』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編83』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編84』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編85』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編86』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編87』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編88』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編89』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編90』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編91』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編92』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編93』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編94』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編95』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編96』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編97』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編98』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編99』 2003
 高岡市史編纂委員会 『新編 高岡市史 資料編100』 2003

写 真 图 版





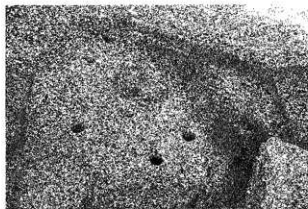
SI01全景 (南から)



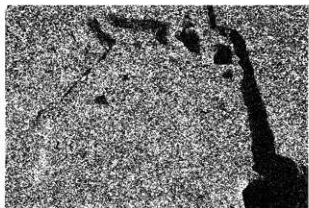
SI02全景 (東から)



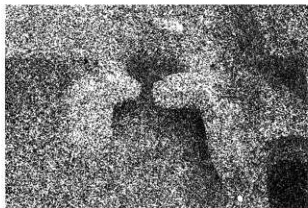
SI03全景 (南西から)



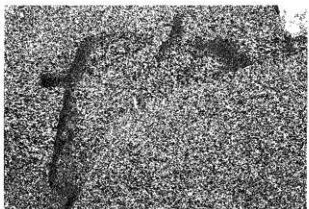
SI03掘り方全景 (南西から)



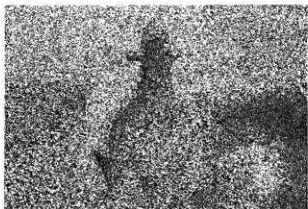
SI04全景 (西から)



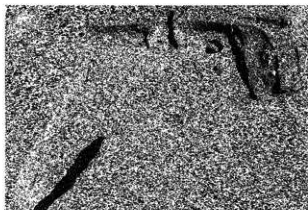
SI04掘全景 (西から)



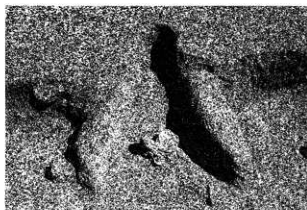
SI05全景 (西から)



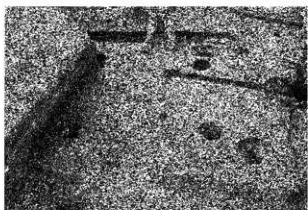
SI05掘全景 (西から)



SI06全景 (西から)



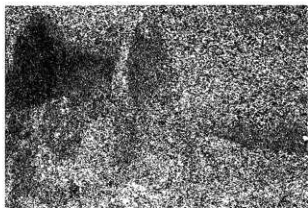
SI06竈全景 (西から)



SI07全景 (南から)



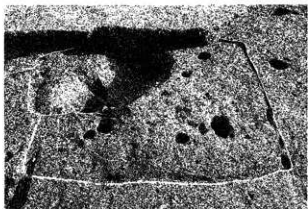
SI07竈全景 (南から)



SI08竈全景 (西から)



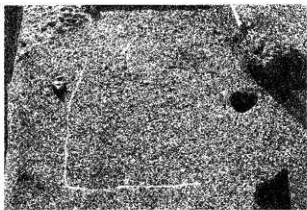
SI09全景 (西から)



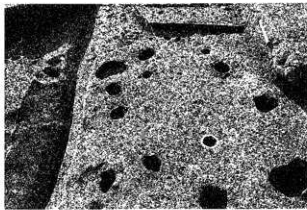
SI10全景 (北から)



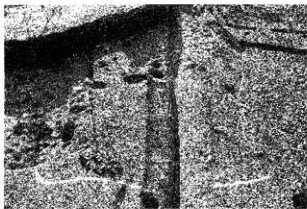
SI11~13全景 (東から)



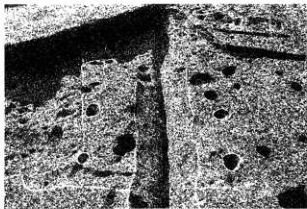
SI14全景（東から）



SI14掘り方全景（東から）



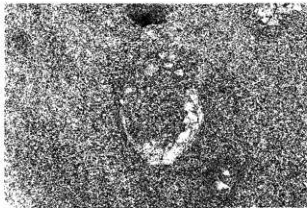
SI15全景（東から）



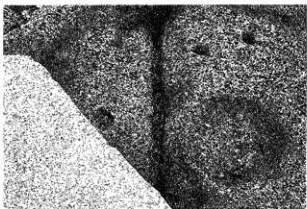
SI15掘り方全景（東から）



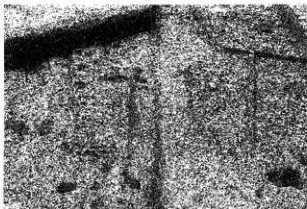
SD01全景（東から）



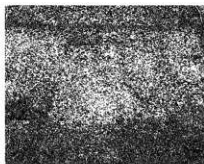
SK32全景（西から）



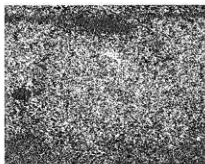
SD09全景（北東から）



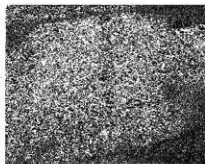
SD13全景（西から）



SD02全景 (西から)



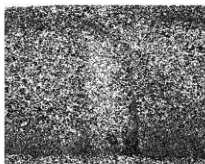
SD03全景 (西から)



SD04・05全景 (西から)



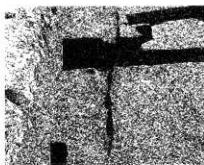
SD06全景 (西から)



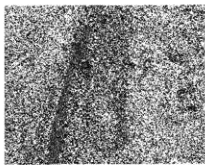
SD07全景 (西から)



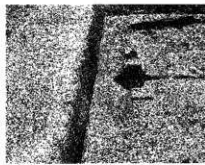
SD08全景 (南西から)



SD10全景 (北から)



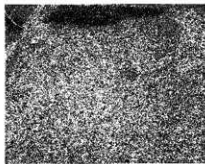
SD11全景 (南から)



SD12全景 (北から)



SD14全景 (北から)



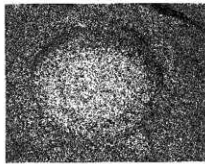
SX01全景 (東から)



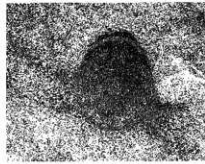
SX02全景 (北から)



SX03全景 (北から)

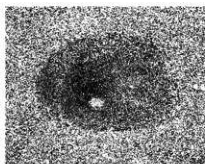


SK23全景 (西から)

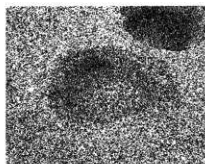


SK27全景 (東から)

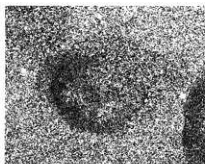
PL6



SK04全景 (南から)



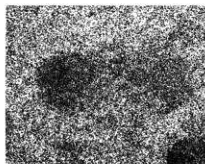
SK05全景 (南から)



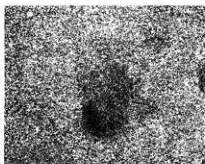
SK10全景 (南から)



SK11全景 (西から)



SK12全景 (南から)



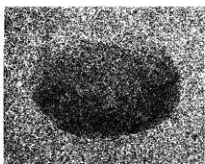
SK13全景 (南から)



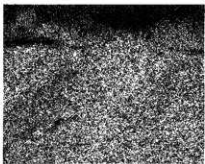
SK15全景 (南から)



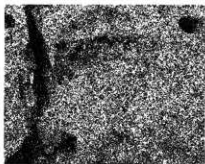
SK17全景 (西から)



SK19全景 (南から)



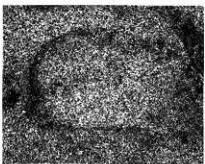
SK24全景 (東から)



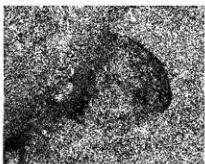
SK28全景 (北から)



SK29全景 (北から)



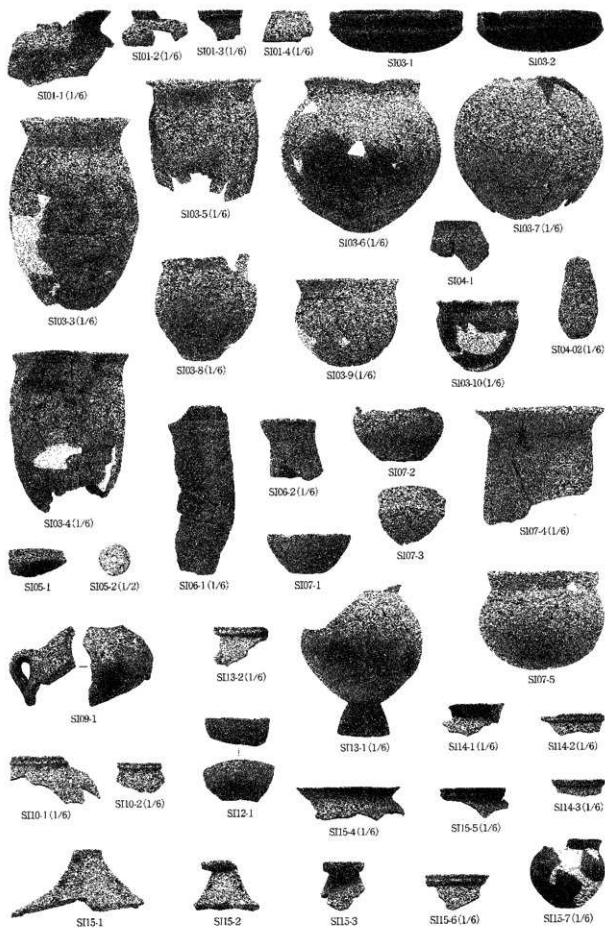
SK30全景 (西から)

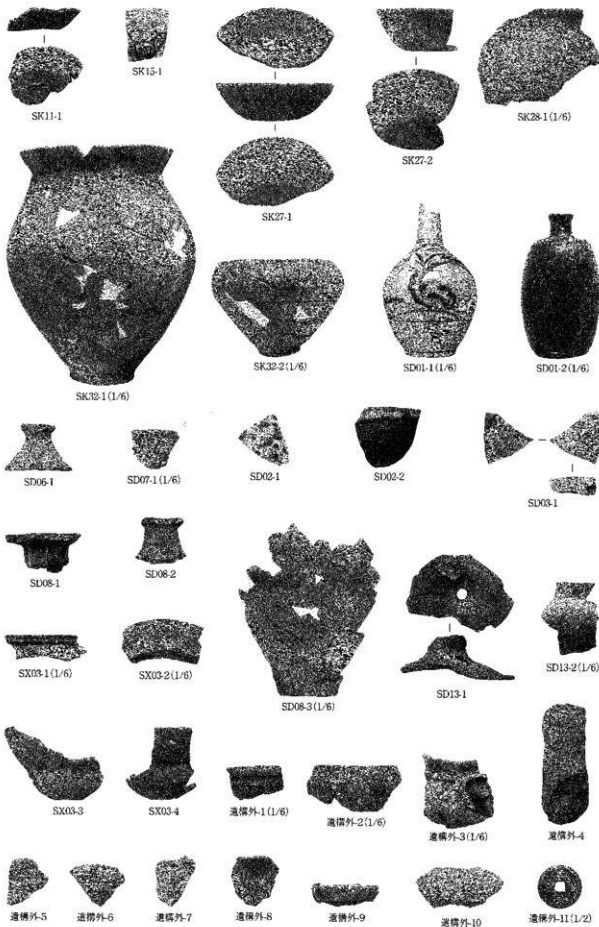


SK31全景 (北から)



SK33全景 (北東から)





報告書抄録

| | |
|---------|-------------------------|
| ふりがな | たかぎ・せきむらいせき2 |
| 書名 | 高岡・堰村遺跡2 |
| 副題名 | 宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査 |
| 巻次 | — |
| シリーズ名 | 高岡市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第287集 |
| 編者名 | 瀬田哲夫 |
| 編集機関 | 技研測量設計株式会社 |
| 発行機関 | 高岡市教育委員会 |
| 発行機関所在地 | 〒370-8501 群馬県高岡市高松町35-1 |
| 発行年月日 | 2011年6月30日 |

| ふりがな | ふりがな | コ ー ド | | 位 置 | | 調査趣向 | 調査面積 | 調査原因 |
|---------|-----------------|--------|------|-----------|-----------|----------------------|---------|------|
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | | | |
| 高岡・堰村遺跡 | 高岡市高岡町字塚村94-1、他 | 102020 | 498 | 36°19'20" | 139°1'48" | 20110207 20110314 | 938.39㎡ | 宅地分譲 |

| 所収遺跡名 | 類別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | |
|------------------|----|------|-------|----------------------|---------------------|-----|
| 高岡・堰村遺跡 第2次調査 | 集落 | 縄文 | なし | 縄文土器 石器 | | |
| | | 弥生 | なし | 弥生土器 | | |
| | | 古墳 | 住居跡 | 14軒 溝 4条 土坑 3基 | 土師器 須恵器 | |
| | | | 奈良・平安 | 住居跡 | 1軒 土坑 1基 | 石製品 |
| | | 中・近世 | 竪立柱建物 | 8棟 溝 6条 土坑 2基 | 陶磁器 在土土器 金属製品 | |

高岡市文化財調査報告書第287集

高 岡 ・ 堰 村 遺 跡 2

2011年6月22日 印刷
2011年6月30日 発行

発行

高岡市教育委員会
〒370-8501 群馬県高岡市高松町35-1
TEL. 027-321-1292

編集
印刷

技研測量設計株式会社
朝日印刷工業株式会社